

The EIKO ALUMNI Vol.103

〔発行日〕2025年4月15日
〔発行人〕栄光学園同窓会 河原光博(37期)
〔編集・デザイン〕広報部 村井基彦(37期) 川村貞知(37期)
〔web〕事業部 大須賀喜彦(39期)
〔表紙写真〕事務局 飯野習一(19期)
〔印刷〕東湘印版株式会社
〔発行〕栄光学園同窓会
〒247-0071神奈川県鎌倉市玉縄4-1-1
Tel&Fax 0467-44-8875
e-mail: admin@eikoalumni.org



栄光学園同窓会 HP 
<https://www.eikoalumni.org/>



同窓会からの最新情報をお届けします。
栄光学園同窓会 Facebookページ 
<https://www.facebook.com/eikoalumni/>



EACON [名簿&コミュニティーサイト]
<https://eacon.alumnet.jp/>

The EIKO ALUMNI

〔特集〕

卒業25&5年を振り返る

contents

ご挨拶	2
〔特集〕卒業25&5年を振り返る	4
OBだより	8
学園だより	18
同窓会information	22

Vol. 103 April 2025

同窓会会長よりご挨拶

春は出会いの季節。栄光学園同窓会も、73期卒業生171名を新たに会員に迎えました。同窓会長として卒業式に参列しながら、37期の私と73期は36歳差であることとともに、1期の先輩方と私の年齢が36歳差であることに気づきました。卒業式から祝賀会に至るまで73期生のイキイキとした姿を見ながら、不思議と1期の先輩方の未だ情熱溢れる姿が重なり、73年の時を経ても、母校栄光学園の6年間は私たち同窓生を繋いでくれているのだと感じました。これからも、時代は変われども変わらない心の拠り所、そんな母校栄光学園であって欲しいと思います。

今だから考える「栄光らしさ」について

73期の卒業式と同じ3月1日に、上智大学にて姉妹校4校の合同イベントを開催しました。詳細は別稿にてお伝えしますが、上智学院のアガスティン・サリ理事長（イエズス会司祭）をお迎えし、イエズス会中等教育（中学・高校）の今を、各校同窓生のパネラー4名と語り合っていました。21世紀に入る前は400名余りいらしたイエズス会の司祭が現在は140名ほどになっているという話（140名余りのうち現役を退いている方も相当数いらっしゃるはず）は、ある程度想像はしていましたが、やはり驚きました。

サリ理事長は、イエズス会中等教育で大切にしてきた価値観として「厳しさ」と「自主性」の2つを挙げられていました。これは私自身が在学中に感じていた「栄光らしさ」と共通するもので、各校の同窓生も頷いている方が多いように感じました。

神父様がいない今の栄光学園で、大切にしてきた「栄光らしさ」が失われて行くのを心配されている先輩方も多いと思います。しかしながら、私自身が卒業から四半世紀が過ぎた「神父様がいない栄光学園」で、長男（67期生）の「保護者」として過ごした6年間でも同様の「栄光らしさ」を感じる場面が多かったのは、今考えると不思議です。もしかしたら、「栄光らしさ」とは「外国の神父様が多数いらっしゃることに由来する多様性」に拠るものだけでは無いのかもしれない。皆さんは「栄光らしさ」（他校と栄光学園の違い）についてどう感じられますか？

4校合同イベント懇親会の場でも、「神父様がいらっしゃらない母校」という共通の心配事を持つ4校の同窓生が、それぞれの経験や立場で活発に意見交換をしている場面が見られました。不思議なことに、他校の同窓生にも「栄光らしさ」を感じる場面が多かったように思えたのは気のせいでしょうか。

在学中はあまり交流の機会が無かった姉妹校ですが、今後共同イベントを企画して行きますので、会員の皆さまもぜひご参加ください。

学園の「80周年記念事業」

母校栄光学園は、2027年に創立80周年を迎えます。学園からご案内の通り、「栄光学園創立80周年事業」の趣意に賛同し、学園の財政的な負担を軽減することを目的とし、「未来EiKO募金」の仕組みを活用して事業費の一部をサポ

ートするため、同窓会・栄光会・後援会・学園の四者で「80周年事業募金委員会」を設立し、同窓会長が委員長に就任しました。

1964年の大船移転から60年以上が経つ昨今、移転当時から使用している大講堂・第一体育館をはじめとする各施設を、今後数十年に亘り学園の教育活動にフルに活用できるよう必要なメンテナンスを施すことは、学園の歴史と伝統を受け継いでいく上で大変意義あることだと考えています。また、昨今の気候変動にあわせた空調整備等は、生徒・教職員が安全に教育活動に勤しむ上でもとても重要で、学園の未来を創っていくために必要な整備であり、在学中の生徒の皆さんにもすぐに価値を体感いただける事業です。

記念事業の第1弾として、今年の5～7月に体育館に空調設備が設置されることになりました。今夏も予想される猛暑・酷暑に何とか間に合い、後輩達が安全に授業や部活にのぞめることは、大変喜ばしいことです。

記念事業の総工費は10億円を予定しており、募金目標額は3億円です。昨年10月末よりスタートした募金ですが、3月8日現在で20,863,000円（495件）、そのうち同窓生は14,891,000円（316件）となっています。募金件数の63%、募金額の71%が同窓生からとなっていますが、目標に対する進捗率はいまだ6.9%です。まだまだスタートしたばかりではありますが、学園の未来に向け、同窓生の皆さまからより一層のお志を賜りたく、なにとぞよろしく願いいたします。なお、80周年事業募金は「未来EiKO募金」の仕組みを活用していますので、所得税・住民税における税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。募金委員会では、一定額以上ご寄付いただいた方に向けた学園からお礼の品等も検討し準備しています。

募金は2028年度まで継続しますので、昨年募金にご協力いただいた皆さまも含め、温かいお志を賜りますよう、重ねてお願いいたします。

私たち栄光学園同窓会の目的は「会員同士の親睦を図る」「母校の発展に寄与する」の2つを軸に、母校で学んだ高い理想と教養をベースに社会に貢献することです。（会則第2条）

環境の大きな変化に合わせた今の「栄光らしさ」を考えることや、学園の未来に向けた80周年事業への協力は、同窓会の目的に適っており、それが則ち母校への恩返しなのだと思います。会員の皆さん一人ひとりのご理解とご協力を、引き続きよろしくお願いいたします。



栄光学園同窓会会長 河原光博（37期）

学園より

32期卒業生で栄光教員の壱岐と申します。教科は社会科と倫理科を、3年前までは生徒指導部長を8年間勤めておりました。栄光学園に勤めてもう36年が経ちました。生徒としての6年を合わせると42年になります。長らく栄光で過ごし続けている一教員として、今の栄光をどう見ているか、少しお話ししたいと思います。

「最近の栄光生はどうですか？」と聞かれて

OBの皆さんから「最近の栄光生は昔の生徒と比べて変わりましたか？」などと聞かれることがよくあります。生徒のどんな面を見るかで答えは変わってきますが、最近ではまずは次のように答えることから始めています。

「今の生徒たちに、栄光はどんな学校かと聞くと『自由な学校』とか『個性的な生徒が多く集まっている学校』という答えが返ってくることが多いです」
今の小学生（親）は、昔よりも念入りに、時間をかけて志望校選びをしている気がします。その結果、栄光には、緑ゆたかな広い敷地で自由に伸び伸び過ごしたい生徒が、以前にも増して多く集まってきていると感じています。またマイペースな子、自分の世界やこだわりを持っている子、ある特定の分野に秀でた子（才能や発達に凸凹が目立っている）が、この学校なら自分の（息子の）長所を伸ばしていけるのではないかと期待して入ってくることも増えているような気がします。

自分の在学中と比べてみて

自分（32期）の時と比べるとどうだろうか、と時々考えてみます。いい意味で雰囲気が変わった部分が多くあると思います。しつけや規律は昔より緩くなってきていますが、一方で学校生活を楽しんでいる生徒が自分たちの頃より多くなったと思います。自分たちは度々「栄光生は個性がない」と言われて育った記憶がありますが、今の生徒たちにはそのような認識は全くないと思います。今の栄光生たちは、自分の級友たちの多くを個性的だと感じており、そんな仲間たちを厄介だと感じることもあるようですが、多くの場合、面白がったり、誇りに思ったりしているようです。

また、授業中の発問などに積極的に反応してくれる生徒が増えてきたと実感しています。他校から授業見学に来た先生方が「栄光の授業はにぎやかですね」と驚かれることも度々あります。記念式典など外部講師を招いたイベントでも、質疑応答の時間になると中1から高3まで質問が絶え間なく続き、講演が終わった後も講師のところに多くの生徒が押しかけるというのが当り前の風景になっています。

昔と変わらない栄光生の気質

一方で、昔も今も変わっていない気質もたくさんあると思います。自分がそう思う点をいくつか挙げてみます。

- ・真面目で、よく努力する生徒が多い
- ・穏やかで、伸びやかな雰囲気 of 生徒が多い
- ・好奇心にあふれている生徒が多い
- ・素朴で、余り外見などを気にしない生徒が多い
- ・面倒見がよく、他者のために役立ちたいと考えている生徒が多い
- ・課外活動は生徒が主体となって運営しているため、自ら考えて行動する雰囲気がある

女性教職員が増えた、神父がいなくなった

教職員に目を転じて見ると、目立った変化としては、まず

女性教職員が格段に増えたことです。現在専任教員では60人中11人が女性、事務職・非常勤教職員では45人中23人が女性です。2024年度は中高24クラス中、女性教員が担任のクラスが7クラスあります。最近の生徒たちにとっては、女性の先生がいることの方が当たり前になっています。

もう一つの大きな変化が、イエズス会士（神父等）が校内からいなくなったことです。入学式・卒業式・始業式・終業式・クリスマス・復活祭・創立記念日など校内の聖堂でミサがあるときには、イエズス会から栄光学園のチャプレンに任命されている神父（今は菅原裕二神父様）がやってきます。今や神父・修道者の減少は世界中のカトリック教会や学校で顕著な傾向となっており、カトリック信徒が多数を占めている国でも、神父がいないカトリック学校が出てきているようです。栄光でも、これまで神父や神学生が担当してきた倫理の授業を信徒教員が担うようになって久しいですし、毎週行われている聖書研究会も信徒教員を中心に信徒以外の教員の助けも借りながら運営しています。

神父がいない中でのイエズス会教育

イエズス会では、全世界的な会員の減少を見据えて、大分前からイエズス会教育とは何かを改めて振り返り、その特徴を文書や本にまとめるとともに、世界中のイエズス会学校（中等教育機関だけで800以上あります）のネットワークづくりを進めています。神父がいないなら、自分たちがつながってイエズス会らしさを守って（高めて）いこう、という流れになりつつあります。

神父がたくさんいた頃の栄光にノスタルジーを感じることもありますが、私たち一般教員が神父の代わりをすることは出来ません。でも、大勢の神父たちが行っていた教育は、カトリック信徒を増やすためだけの教育ではなかったと思います。最近の世界的なイエズス会教育のキーワードを使って言うなら、「カトリック・マインド」を育むことや、日々の生活や体験を通じて神に通じる「何か=something-ism」を感じとるセンスを養っていくことが大切にされてきたように思えます。これらは、先輩の先生方や卒業生の皆さんが培ってきた「栄光らしさ」通ずるものだと思います。

これからも「栄光らしさ」は生き続けていく

卒業生の皆様から見ると、一見今の栄光は自分たちの頃とは違った学校になってしまったように感じられるかも知れませんが。確かに違う点を探せばいくつも出てくるとは思いますが。しかし、私はそんな中でも「栄光らしさ」は生き続けていると思っていますし、これからも今の若い教員たちによって受け継がれていくと信じています。卒業生の皆様には、今後とも栄光学園を暖かい目で見守ってくださいますようお願いいたします。



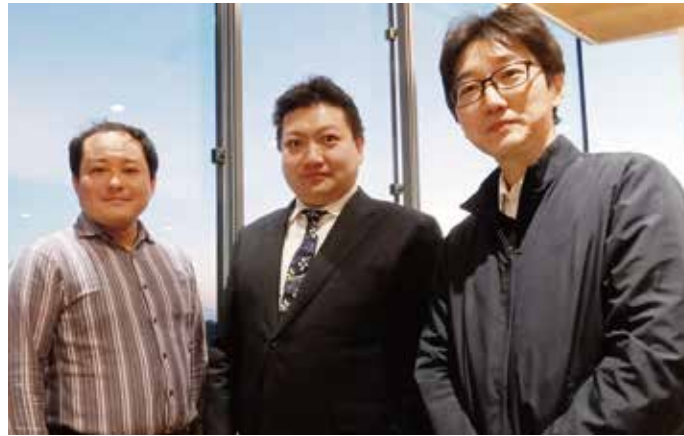
栄光学園 教諭 壱岐太（32期）

卒業25&5年を振り返る

48期生(卒業25年)と68期生(卒業5年)に、当時の学園生活や、栄光が今の自分に与えた影響・近況などを寄稿していただきました。

卒業25年を振り返る:48期

卒業から25年ということで、2025年2月7日学校に集まり、栄光に通っていたころの思い出、今になって考えることなど、とりとめもなく語り合いました。



高橋宗芳(ヴァイオリニスト) 川邊賢一郎(弁護士・プロレスラー) 鈴木太朗(栄光学園教諭)

今やっていること

川邊:横浜駅のすぐ近くで法律事務所をやっている弁護士です。もう1つ仕事をやってて、プロレスラーをやってます。月に一回くらいリングにあがってます。2月10日も試合があります。高校のときは硬式テニス。

鈴木:都内の学校に10年ちょっと務めた後、栄光に戻ってきて、今7年目。物理を教えています。部活は物理研究部で、LEGOでロボットを作る班をみえています。学生の頃はサッカー部でした。

高橋:仕事は音楽家をやっていて、バイオリニスト、指揮者、それから最近是指導者をやっています。川崎市で教室を構えているんですけど、それ以外にも栄光フィルの指揮とか、演奏活動を続けています。栄光にいた時は野球部に所属していて、栄光フィルもやっていました。

鈴木:社会人になって20年位たったわけだけど、どんな感じ？

川邊:僕の場合は弁護士になったのが30の時なので、まだ13年目なんだけど、自分で事務所を経営しているので、仕事はある程度好きにできて、自由が利くのはめちゃくちゃ楽しい。弁護士の仕事自体も、色々エキサイティングな仕事が多くて楽しいです。一方で、全責任が自分にあるのはしんどいところかな。仕事の質としては、もちろん少しずつ変わってくることはある。離婚の事件を受任しましたって言っても、こっちの離婚とあっちの離婚では全然違うわけで、そうすると常に違うことをやっていて。まあ、本質的には変わらないか。10年くらいたって変わったこととしては、お客さんの集客の仕方が変わったかな。最初はインターネット広告がほとんどだったんだけど、最近は紹介と広告が半々くらいになってきた。

高橋:それは似たようなところが僕もあるな。今一番にしているのは教室なんだけど、これが10年行かないくらい。初めはインターネットだったけど、少しづつ口コミで人が増えてきたとこ

ろ。僕の仕事の場合、これしたらおしまいっていうのがなくて、練習したければもっと高みを目指せる。だから永遠に仕事してしまうんだよね。

川邊:そこなんだよね。割と自営業者はその辺区別しないと病みがちな。だんだん仕事とプライベートの境目がなくなっていくと、好きな人はいいけど、どっかでゆがみが来て、疲れちゃうって人よく見るから。

鈴木:今の仕事をするきっかけはあったの？

川邊:僕の場合は弁護士の仕事に最初に興味を持ったのは、中3の時に相原先生に横浜地裁に裁判の傍聴に連れて行ってもらって。今でも覚えてるんだけど、被告人は20歳そこそこ位の若い、いま僕から見たら子供に見えるような方で、検事が割と若めの女性で、めちゃめちゃ厳しく追及していくのに対して、弁護士はおじいちゃんみたいな感じの結構ベテランで、その弁護士がすごく優しく質問していく中で、なんでこんなことやっちゃったのかっていうのを、被告人が言語化するのあまりうまくない中、それを解きほぐして行って、みんなが分かるようにするのがすげえカッコいいな、って思ってた。それが一番最初の弁護士になりたいと思ったきっかけかな。プロレスラーの方は、野口と教室でやってたから。掃除の時間にね。あれ、よく怪我しなかったと思うよ。卒業式の日には体育館で高校生活最後の試合をしたけど、ボロ負けして早稲田の合格発表は腕がはれ上がった状態で見に行った。鈴木:フランケンシュタイナーとかやってたよね。固い床で。正気じゃないよ。

川邊:パワーボムとか食らってたしね。まあ、そうやって考えると全部自分のルーツはその時だなんて思う。弁護士はもともと考えてなかったのが、その傍聴をきっかけにカッコイイな、って思った。相原先生には前会ったときにそういうこと伝えただけど、そしたら笑って「ごめんね」って言われて、「いや、ごめんねじゃないですよ。」って言ったんだけど。

高橋:僕は学校に行った時は、もう徹底的におふざけで、まあここに3人はみんなそうか。でも高1くらいの時、思想とか宗教とか、何で生きてるんだろう？とか考え始めたら、勉強よりそっちが大事だと思いはじめて、だんだんもう授業中も気になってきちゃって、それで遅刻したふりしてよく山にこもってさ、3時間目くらいに学校に行くんだけど、先生に「すいません。遅刻です」って言って。で、そういうこと考えてるうちに答えは出てこないんだけど、やっぱり音楽がちよっと近いのかなっていうことを考えて。現実には技術を習得しないといけないから手を動かさないといけないんだけどね。まあでもどうにか形になって。

鈴木:開業した時はどうだったの？

川邊:僕は初め2年間法律事務所に勤めたんだけど、独立したくなっちゃって、もう本当にばーんと飛び出してしまったんで、

準備とかしてたわけじゃなくて。だから最初の二カ月は本当に空白。一ヶ月二ヶ月、全然売り上げが立たないみたいな時が当然あるわけ。最初の頃は「今日も電話鳴らなかった・・・」とか。そういうことで一日一日落ち込んで、月末が来るために今月の売り上げこれしかないのかって。でも二ヶ月くらい経つと仕事が入るようになって。10年経つと、一カ月売り上げが立たないことがあっても、まあ次挽回すればいいだろうみたいにはなってきた。

高橋:やっぱ二カ月だね。俺はアメリカに留学したことがあったんだけど、日本に帰ってきてしばらくしてから、もうたニューヨークに行きたいっていうことでまた行きました。仕事も何もないんだけど、引っ越した。でも不思議なもんなんだよね。まあ、そのときは頑張ったんだと思うんだけど、2カ月頑張れば何とかなるんだよ。社会に包容力があるっていうか。それこそ公民で習ったアダムスミスの見えざる手みたいな感じ。

川邊:そうなんだよ。そこでジタバタするよりは委ねたほうがいいんだろうね。

栄光の思い出

高橋:野球部でだいぶ厳しくしてもらったのがよかったなと思うな。当時うちの父親が病み上がりで、今思うと結構弱々しくて、だから思春期の時に厳しくしてもらえたのはありがたかったな。あと先生たちが自分の知識・経験を伝えたいって欲がある人が多いのが面白かったな。例えば大沢先生の授業でイスラエルの話されたりとかさ。

鈴木:1年間イスラエルだったよね。あれ？これいつまでイスラエルやってんのかな？って。

川邊:死海の水だって渡されてね。

鈴木:それ終わったら次の年かな、相原先生が一年間エジプトの話してくれて。

高橋:面白かったよね。別に大学受験の勉強じゃなくてもさ、そういうのがなんか自分の人生に影響を与えてきたりするんだよ。覚えてるのは、碓井先生の国語の授業で羅生門やったんだよ。で、最初の授業最初の2・3行で終わったからね。そもそも羅生門というタイトルは何なんだろう、羅生門っていう門は現実の歴史には存在しなかったんだけど、って感じでタイトルだけでもう20分くらい経ってて。碓井先生の授業大好きだったな。

川邊:先生方みんな名場面を持ってるよね。

鈴木:そういう雰囲気は今も生きてると思うよ。去年中2で理科を教えてる先生が光の授業してたんだけどさ、1学期レンズの授業してカメラ作ってさ、2学期になってもレンズの授業してるんだよ。「あれ？まだやってるんですか？」って聞いたら、「顕微鏡も望遠鏡も作ってる」って。驚いてプリント見せてもらったら、もう高校物理越えちゃってるの。中2でだよ？すごいな一と思って、とても励まされてる。教員の中でも代々引き継がれているものがあるんだろうね。でも教員やってると思うのは、そういう教員の姿勢に答えられる生徒がいるってことも大きいと思うな。

鈴木:授業以外で思い出に残ってることはある？

川邊:僕は聖書研究会に入ってたんだけど、年に一回修養会っていうのがあって、毎年3月に鎌倉十二所にあった黙想の家や上石神井の修道院にお邪魔して、2泊くらいして静か

に黙想するんだ。一日に何日かミーティングするんだけど、それ以外は本当にずっとただ黙って静かにするの。ご飯食べる時も、みんなで食堂で食べるんだけど、その時も最小限の会話だけ。それを1年に1回やるのがすごい楽しくて、中1から高3まで参加して。あれはよかったな。なんか非日常の体験だし、それこそ山に籠るじゃないけど。

高橋:自分と向き合う時間になるよね。瞑目もそうじゃない？今大人になって、黙って目をつぶってる時間を作るかっていうと、まあしない。日常の中にそれが、一日に授業の前後で12回あったんでしょ。6年間毎日12回あるんだよ。なんか影響を及ぼしてるよね。

川邊:最近あちこちの学校行ってキャリア教育をするっていう活動に参加してるんだけど、似たような感じで切り替えをしている学校はいろいろあったけど、目はつぶってなかったな。目はつぶったほうがいいよね。

高橋:あと俺さ、最近やたら掃除するんだよ。当然仕事優先なんだけどさ、先に掃除したくなっちゃう。

川邊:小学校の時さ、他の学校も見に行っただけど、栄光に学園祭のときに見に来たらトイレが綺麗でさ、それでなんか栄光いいなと思った記憶があって。

鈴木:そうか、僕らの時はトイレ自分たちで掃除してたね。今はコロナのこともあって、トイレは清掃の方に掃除してもらってる。僕は毎日生徒と一緒に教室を掃除してるんだけど、昔先生に言われたことそのままやっていることに気づくことがある。中学生の時に掃除してたら、大沢先生が来て「箒の使い方が下手だな。こうやって使えんだ！」って言って教えてくれたことがあって、今僕もおんなじことやってる。

川邊:聖書研究会にしても、掃除にしても色んなことから埋め込まれてるものはたぶんいっぱいあるんだろうね。

鈴木:倫理の授業で学ぶことももちろんあるけど、理解できてなくても体に染みつく部分があるよね。僕は大学の学部選ぶ時も、仕事選ぶ時も、栄光で学んだことは1つ軸になったな。

これから

川邊:いつの間にか同期がいなくなったりが平気である。心をやられる方ばかりで、倒れてしまったり、健康を崩す人がすごい多いので、まず自分が健康でいて、ちゃんとご飯食べれてて初めて他人だと思うので、まずは健康だけは大事にしないといけないな、と思ってる。

高橋:もう徹夜はできないもんね。最低限終われば翌日やればいいよね。

川邊:試合のダメージがね、残るのよ。昔は試合終わって飲みに行って、翌朝ピンピンしてたんだけどさ。社会人になって今ちょうど稼働年齢の真ん中くらいなんだけど、全然楽になった感覚がなくて。ずっと溺れないように一生懸命顔を水面の上にあげて毎日過ごしてるみたいな感じだから。要領よくできるようになったところもあるんだけど、そうならなかったで結局他のことやらなきゃいけないって、結局変わらず溺れてるみたいな感じ。自分の最初のイメージでは10年経ったら楽になると思ってたんだけど。

鈴木:いつになったら楽になるんだろうね。周りを見ると、自分が生徒だった時にお世話になった先生方が、今も忙しそうに働いてるから、「楽になる」ってのはただの妄想、願望なのかもね。

卒業5年を振り返る：68期

卒業5年目の現在地をどういう形でレポートしてくれる人いないかなあと、68期の期委員などにコンタクトするも…。思えば、現役で大学に入ったら、社会人1年目か、大学院の1年目。浪人を経由すると大学4年生あるいは3年生。ここ数年の就活の超早期化の流れもあって、なかなかレポートを書いてくれる人にコンタクトすることに苦労しました。そんななか、石戸君が寄稿してくれました。大学に入学後もアクティブに新しいことにチャレンジしている若者のエネルギーを感じていただければと思います。 同窓会広報部



▲ヨット部では個人として全日本大会に出場

大学学部4年間を終えて

私は栄光学園を2020年に卒業し、横浜国立大学理工学部で大学生活4年間を過ごしました。今思い返してみるとあっという間でしたが、新型コロナウイルスの影響で受験の時に思い描いていた大学生活とはかけ離れたものでした。

私達の世代はちょうど高校3年生の最後の受験期からコロナが始まり、受験自体にダイレクトに影響はなかったと言えども、卒業式は短縮され、祝賀会もなく栄光学園を後にする、という形でした。そこから大学1年生の時はコロナ全盛期で、入学式は無く、なんと授業開始は6月。すべてオンライン授業でしたので、友達にも会えず、ただ家で授業を受けるだけの生活でした。今考えると、よく耐えた自分！とほめてあげたいくらいです。この大学デビューがコロナによって180度変えられてしまったことは、今でも同期で集まった時の話のネタです。それぞれの大学でそれぞれの苦労があったことをお互いに慰め合う。そんな時間がたまには必要なのです。

そんなイレギュラーな大学生活の始まりでしたが、この4年間を充実したものにしてくれたのは、所属していたヨット部の存在が大きいです。ヨットとは風のみを使って海を走る船のことで、私は小学生の頃から続けております。中高はプラスバンド部に所属していましたが、その傍らヨットは細々と個人で続けていました。大学に入り、プラスバンドを続けるか、はたまた心機一転運動部であるヨット部に入るか、かなり悩みました。結果として今にしかできないことはなんだと考えた時、部活でやるヨットを選択しました。幸いなことに体育会であるヨット部は明確に全日本大会などの活動目標があるため、部活動がコロナによって無くなることはありませんでしたが、最初から対面で集まれず、オンラインでの活動から始まりました。運動部にとって対面で会えないことは致命傷です。ヨット部では本来ならば海辺に集まり、みんなで一斉に船を出して海上で練習を行います。しかしオンライン環境では、個人でランニングしたり、Zoomで座

学や筋トレを行ったりするだけの日々。「ヨットに乗れないヨット部」を続けていく中で、やっている意味が分からなくなったりする場面も正直ありました。しかし、いつか再開する対面活動のため、全日本大会出場という目標のために何とかモチベーションを保っていました。紆余曲折もありながらも1年生の半ばくらいから対面活動は再開することができ、行動が制限され不自由な環境の中でも開催される全日本大会のために練習をなんとか行うことができました。結果としてそこから4年間続け、最後の一年は主将を務め、個人として全日本大会出場、そして部としても4年連続全日本出場を達成することができました。大会ごとに嬉しさ経験や、反対に悔しい経験も沢山ありました。でも今思い返して、自分が迷ってヨット部に入部した選択、コロナのイレギュラーの中でも続けた選択は間違っていないかったと、胸を張って言えることができます。この大学4年間で、栄光の6つのキーワードのうちの一つ「やるべきことを、やるべきときに、やる」、「AGE QUOD AGIS」の精神をこのヨット部で全うできたのかなと、我ながら振り返っています。

さてもう一つ、私が大学生活で力を入れていたことに、研究活動があります。横浜国立大学理工学部には、通常4年生からの研究室配属のところを1年生から研究室の先生の指導を受けることができる制度があり、その制度を利用し研究活動を行っておりました。私は主に航空宇宙分野を行う研究室に所属しており、テーマとしては月に着陸する宇宙船の着陸軌道についての研究を行っておりました。初めて行う研究活動でしたので、試行錯誤の日々でしたが、いくつかの学会発表や学内賞の受賞などを経験することができました。

そして、その経験を基に昨年3月に栄光学園の1教室をお借りし、ささやかながら「OB出前講演」をさせて頂きました。大学から派遣されるという形での出張となり、こちらからのオファーとなりましたが、石川先生や片居木先生をはじめ、教務や指導部の先生方に快く受け入れて頂き、実現することができました。本当にありがとうございました。自分としても大学4年間で頑張っ取り組んだ成果をこうして母校に還元できることはな



栄光で出前授業▲



▲総合研究大学院大学の院生としてJAXAのプロジェクトにも関わる

により光栄でした。

今は大学を変え、総合研究大学院大学（総研大）の大学院に進学し、自分の専門分野である「宇宙工学」を深めるべく研究に勤しんでおります。総研大とは聞きなじみの薄い方もいらっしゃるかもしれませんが、総研大は国立の大学院のみの大学院で、日本各地の国の研究所に基盤を置く大学となっており、私はその内の一つであるJAXA宇宙科学研究所に通っております。JAXA就職、というわけではなく、あくまで学生として宇宙科学研究所の研究室に所属している形で、基本的な生活は他の大学院生と変わりません。しかし少し違うのは、JAXA内のプロジェクトに参加する機会がある、ということです。学生主体で行う小規模な衛星プロジェクトから、今実際に運用している探査機まで、関われるものは多岐にわたります。このような日本の最先端を走る宇宙プロジェクトに関われる機会に魅了され、総研大に進学することを決めました。

今の研究分野としては、2020年に小惑星からのサンプルリターンを成功させた「はやぶさ2」に続く、次世代の深宇宙探査機についての研究を行っております。まだまだ研究者としては半人前ですが、博士課程修了まで全うし、世界の誰にも負けない自分だけの専門分野を持つことが今の目標です。今後、いつか栄光学園で大きな講演会ができるように、名だたる先輩に恥じない実績を持つ研究者になりたいと思うばかりです。

5年ぶりに講堂の舞台にて

ここで、久しぶりに集まることのできたプラスバンド部OBの思い出を一つ書いていこうと思います。私が所属していたプラスバンド部には定期演奏会という1年に1回の成果をお披露目する演奏会があり、その一部にOBのみで演奏するOB演奏という企画が毎回盛り込まれていました。しかし、コロナウイルスの影響で、私が卒業してから3年間は演奏会自体ができていなかったり、OB演奏ができない時期が続いていました。ですがコロナが明け、2024年。遂にOB演奏が復活するということで、張り切って参加致しました。大学のころは楽団には所属していなかったため、自分にとってかなり久しぶりの合奏でした。いざ合奏の前に、ブランクを埋めるべきとまず自宅で練習、しかし、現役の時にはスラスラ吹けていた楽譜が全くできないという始末…。自分の衰えを痛感しつつ何とか合奏へ向かうことに。合奏では自分の同期含め、先輩方、卒業した後輩も多数参加しており、ほとんどが卒業しても楽器を続けている人ばかり。高校生の頃知っていた先輩も格段に上達されている中で、自分だけブランクを抱えての参加となり、少し肩身が狭い状況でもありました（笑）。でもそれ以上に「みんなと演奏する」ということが楽しく、またこうして現役の頃に知り合えたメンバーとまた一つの曲に取り組めることは感無量でした。そして本番。5年ぶりに立つ講堂の舞台。スポットライトを当てられ、舞台袖から舞台へ向かうその道中、現役の頃の光景、想いが一気にこみ上げてきました。初めて中学1年生の時に舞台上に立ったとき、超満員での演奏会だった栄光祭、最後の定期演奏会で最後の指揮をした曲。ここ栄光の講堂で数多くの大切な経験をさせてもらったなと改めて感じるばかりでした。

コロナによって忘れかけていた対面で会うことの大切さと、何歳になってもできる楽器、合奏の良さを改めて体感した演奏会でした。これからも、自分を成長させてくれた場所を思い出す機会として、足を運べたらなと思っております。

石戸大智 (68期)
総合研究大学院大学
先端学術院 宇宙科学コース



栄光プラスの定期演奏会はOBと現役部員がジョイント▲

廣川信隆氏(12期)、文化勲章受賞



2024年11月、廣川信隆氏(12期)が日本の分子細胞生物学の開拓と発展への長年にわたる多大な貢献が認められ、文化勲章を受章されました。廣川信隆さんの研究成果やその社会的貢献について、同窓会誌としては、引用をもって紹介したいと思います。

廣川信隆さんによる研究内容の紹介

(令和5年講書始の儀におけるご進講内容：宮内庁のHPより抜粋)

私たちの体は、細胞から成り立っています。この細胞の構造及び働きの基となる蛋白質は、合成された後、膜で囲まれた多種種類の小胞や、分泌顆粒、ミトコンドリア等の多彩な膜小器官や蛋白質の複合体として、働く場に到達します。それらがどのように到達するかについては、最近まで細胞液の中を拡散により運ばれていると考えられてきました。しかしそうではないことが明らかになってきたのです。細胞は、私たちの社会に似ています。私たちの社会では、農村で米、野菜、果物などを作りそれを航空機、列車、トラック等、速度の違う様々な交通手段を用い都市部に輸送し、また都市部近郊で製作された、コンピューター、冷蔵庫、テレビ等の家電製品をやはり多様な交通手段で地方に輸送します。細胞の中でも合成された蛋白質は、多種種類の積荷として細胞内を規則的に張り巡らされたレールの上を使われる場に向かって多種種類の分子モーターにより実に巧妙に運び分けられているのです。私たちは、電子顕微鏡観察により分子モーターの存在を予想し、この細胞内のレールである25nm径の微小管の上を走るキネシンスーパーファミリーモーター分子群、KIFsのヒト及びマウスの遺伝子45個をすべて同定し、この精緻な細胞内の輸送機構の全貌を明らかにしてきました。

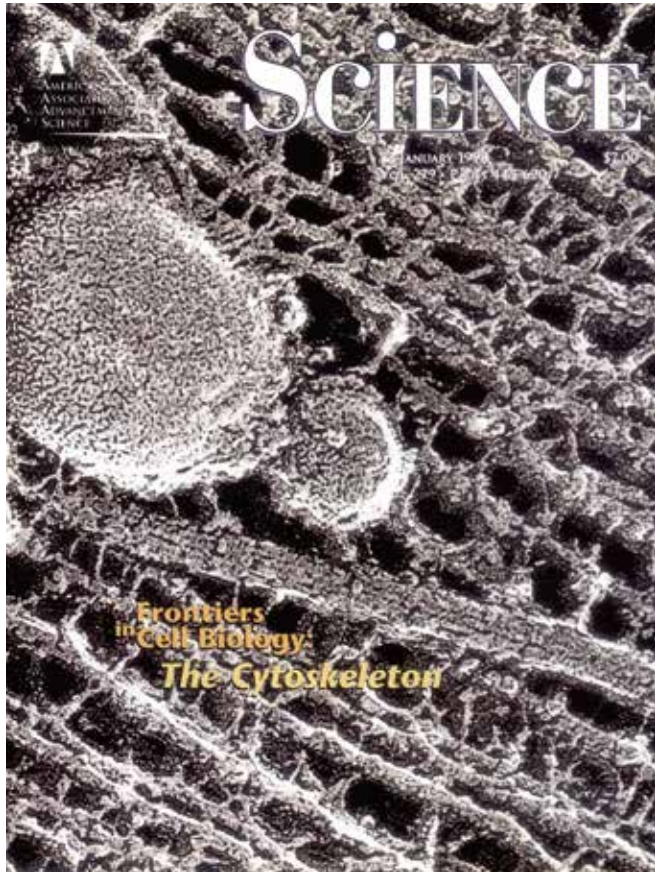
モーター分子(50～100nm)が私たちだとすると、私たちは直径5mの土管の上を秒速100mで10tトラックほどの大きさの積荷を担いで10万km、つまり地球2周半もの距離を走り回っていることになります。このモーター分子たちは、今この瞬間も私たちの神経細胞を始めあらゆる細胞の中で走り回っており、そのおかげで私たちは、考え、記憶し、生きることができるのです。例えば、脳の記憶・学習をつかさどるKIF17という分子モーターに関する研究成果は、いわゆる“頭の良さ”というものは、生まれつきの遺伝的要素だけで決定されるのではなく、頭を使うことにより記憶学習等の能力が高進する、自らの努力によ

って向上するという私たちの人生にとっても非常に重要なメッセージを含んでおります。

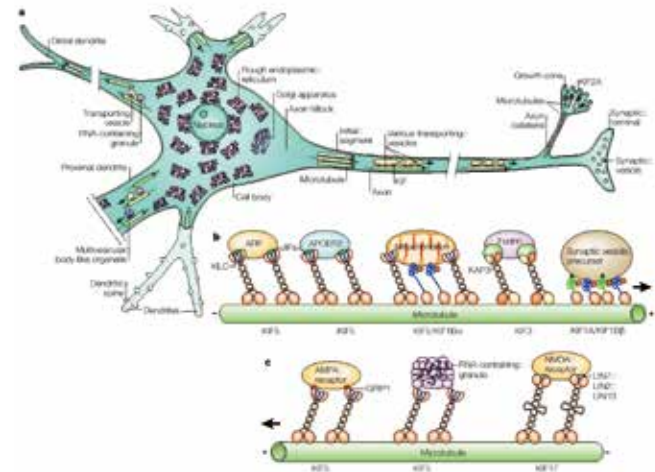
評価されたことの紹介

(東京大学大学院の広報HPより抜粋・一部編集)

廣川信隆さんはわが国の分子細胞生物学の発展に多大な貢献を果たされました。氏は1970年代に米国にて先端的な電子顕微鏡法の開発にたずさわられ、大きな研究成果を挙げられました。帰国後、キネシン分子モーター(KIFs)と総称される新しい細胞内輸送酵素群の研究分野を他に先駆けて切り拓かれ、学問的な基盤を築かれるとともに、多くの後進を育てられました。1990年代初頭にマウスの全KIF遺伝子を同定され、クライオ電子顕微鏡・X線結晶解析等を用いてモーター作動原理解明に挑まれる一方、数十種類のノックアウトマウスを作成し、共焦点レーザ顕微鏡・超解像顕微鏡等を用いてKIFsの機能の集学的解析を完遂されました。先生のご研究により、細胞の骨組みである微小管の上を貨物列車のようにオルガネラ群の行き交うイメージが定着し、動的な細胞の姿に初めて光が当てられました。KIFsの異常が、神経難病、統合失調症、左右逆位など多くの重篤な疾患の遺伝的要因となることを解明され、この分野のパイオニアとして、幅広い生物学を展開されました。



▲1998年、科学雑誌Scienceの表紙を飾る！



▲ Neuron transport KIFs scheme

同期からの祝辞①

廣川さん文化勲章受章おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。私は廣川さんとは小学校からずっと一緒に仲の良い友達でした。ここで当時の思い出を少し記してみます。

小学校は横須賀学院という学校で、軍艦三笠と当時の清泉女学院に挟まれたところにありました。高校までの一貫校でしたが、上を目指す生徒は外部受験をするのが通例でした。廣川さんの成績は当然の如く学年一番で抜kindでいました。この年栄光学園に入学したのは3名で、廣川さんの他には音楽家の深澤茂行さん、有名なでござんじの方も多いでしょう。ついでにもう一人が私。

当時私どもはいたずらや悪さもたくさんしました。よく隣の清泉女学院に金網越しに石を投げいれては逃げたものです。清泉小学校出身の栄光生がたくさんいましたが、このことを知らないかもしれません。廣川さんがこのようなグループにいたかどうかは覚えがありませんが、やんちゃで無鉄砲、親分肌などところがあり、いじめっ子を退治して意気揚々だったりしました。しかし一方大人びたところもあり、先生や友達とはうまくやっていたようです。

中学に入ってからはやんちゃな面は影をひそめ、優等生タイプになっていったように思います。

廣川さんと荒井進さん、小生の3人は中学高校を通じてずっと仲の良い友達でした。荒井さんは接着剤で有名なセメダイン(株)の社長、会長を歴任された人です。思えば私もすごい人たちと仲良くしてきたものですね。

3人はよく海に行ったり山に行ったり、共通の趣味の卓球をしたりしていました。悪い言葉で言えばつまんずるんではない事でしょうか。しかしそこは栄光生、ヤンキーなことは一切しませんでした。

廣川さんが意識していたかどうかは別にして、私は常に彼に強いライバル意識を持ち、何事も少しでも上に立ちたいとやっきになっていました。しかし今にして思えば運動を除いて、学力ほか色々な面で対抗できたことはほとんどありませんでした。ただこのライバル意識を持てたことは私の人生に多いにプラスだったと思っています。

廣川さんの特徴を挙げよと言われれば、粘り強さと社交性がまず頭に浮かびます。

粘り強さについていえば、長い付き合いの中で廣川さんが音を上げたという記憶は全くありません。差があるはずの卓球や、

相撲でもしかりでしぶとく食らいついてきました。

社交性があることは付き合いの広さからもあきらかであり、社会人になってから荒井さん含め3人で食事した時も会話の主導権を握っていました。またあの混とんとした東大医学部で学部長まで上り詰めたことを考えると単なる社交性だけでは説明がつかず、政治力も相当なものであったと推察されます。今思えばこれは小学校の頃の行動からもうなずける所です。

中学高校時代、一方的に意識していた私のライバルが、文化勲章受章で私の英雄になりました。廣川さんのことから今後も楽しみながら研究を深めていかれることと思います。益々のご活躍をお祈りします。新津豊(12期)

同期からの祝辞②

廣川さんが文化勲章を受章されました。誠に輝かしく、誇り高く嬉しいことです。彼の業績については既に広く多くの所で紹介されているので、そちらにお任せすることとしてここでは、彼の人となり性格を紹介したいと思います。

彼を一言で表現するなら、兎も角、謙虚であり真面目で、目立たない、他人を裏切ることのない人間だと思います。欠点を探するのは難しいと思います。

彼とは栄光時代中学1年から同級でした。田浦にあった学園に横須賀学院小から進学されました。当時横須賀で盛んであったらしい「南京テニス」という遊びに興じました。陸上部に所属されて身体を鍛え、東京大学に見事に合格、進学されました。医学科に進学された後、徐々に頭角を現し始めます。

教科の中では、解剖学、特に組織器官を顕微鏡で見る組織学に興味を持たれたとのこと。細胞の美しく並んだ配列、繊毛の生え方にも眼をひかれたとのこと。これらは現在の分子生物学の下地となっているのでしょう。

大学では山岳部に所属されました。これには栄光時代の天狗さん、丹沢の山小屋が下地となっているのでしょう。山に登るためにスタープレーヤーは不要で、仲間と一步一步確実に登ることが肝要です。大学山部では夏に北アルプス涸沢に夏季診療所を開設していますが、そこでの診療も手伝いました。失敗のエピソードもいくつか提供されています。雪渓で転んでスキーを流してしまった時は、スキーだけでなく靴も流してしまつた、と。それでも笑顔は忘れなかったとのこと。医学部卒業後は、一旦脳外科を一年間研修した後、解剖教室へ。この時の教室は中井準之助教授、養老孟司助教授(栄光4期生)そして廣川助手という豪華メンバー。アメリカUCSF, Washington大学等を経て、1983年東大教授、2010年医学研究科特任教授。現在に至ります。凍結切断電子顕微鏡技術を用いて細胞骨格の分子を見える化させました。そして分子の動きを司る分子モーターの解析に進まれました。詳細は関連の文献をご参照ください。佐藤孜(12期)

栄光学園公式サイト【受験をお考えの方へ】>【卒業生インタビュー】にも廣川信隆氏のインタビュー動画が掲載されております。ご興味も持たれた方は、是非そちらもご訪問ください。





開宴しました。

この後しばし食事、歓談を楽しんだあと、永末、北畠、川田、大河原、加藤(洋)、加藤(陸)、斎藤(栄)、高橋(三)、中山、の各君が近況を報告しました。内容は例によって健康に関わる話が主でしたがその中で以前から健脚で有名な加藤(陸)君が8時就寝、4時起きで毎日歩いていて、それが健康の秘訣で、お酒も毎日飲んでいる、と云う話しをして

皆感心。現在も医師の仕事が続けている加藤(洋)君、サクソフンのプロの仕事が続けている高橋(三)君の話しに元気づけられました。また最後に話した中山君がそろそろ皆終わりを考えて、周りに迷惑を掛けないよう身辺を整理して、エンディングノートを書いておくべきだと云う話しをし、皆「判っちゃいるけど」と云う反応でした。

その後恒例、石川君のリードで「千里の波濤」、「Pirates Song」、「Eiko High Forever」を唄い、ほぼ終了。最後に来年以降の開催について出席者の意見を募ったところ、圧倒的にあと2年、85歳になるまでは続けようと言うことになり、来年の再会を約してお開きとなりました。そして今年も浜銀クラブでの開催については山野井君にお世話になりました。

河相董(8期)

栄光学園内にて“23期卒業50周年記念同期会”を、同期60名の参加を得て盛況のうちに開催いたしました。23期は卒業以降ほぼ毎年、秋口に同期会を開催してきましたが、今回は卒業50周年の大きな節目の会ということで、幹事一同相談の上、3部構成の重層的なイベントとして開催しました。

まず第1部として、当日午後2時より「祈りの会」と題した集いを栄光学園内聖堂にて、キエサ先生司式のもと実施しました。会の趣旨は、多くの同期の仲間との再会への感謝とともに、残念ながら亡くなった14名の同期への追悼の意を表す意味を含めたものです。キエサ先生のご意向で、信者ではない多くの同期に参加してもらえるように、聖書朗読や聖歌合唱を盛り込みつつも純粋なミサ形式ではなく、緩やかな内容の祈りの集いとして執り行われました。同期の井上、杉浦両君から亡くなった同期との思い出を語るコメントも捧げられ、また亡くなった同期のご親族にもご参列いただくことができました。

第2部としては、「祈りの会」終了後の午後3時より、2つのグループに分けて学園内諸施設の見学ツアーを行いました。ツアーのご案内は栄光学園中学・高校の事務統括を務められる山田さん(30期)にお願いすることができました。短時間ではありましたが、同期の面々は、自らの在校時代の懐かしい思い出



をダブらせながら、校内各所を感慨深く辿ることができたと思います。

そして、この記念同期会の結びとして午後4時より、アロイジオ会館2階の集会室において、懇親会を開催しました。コペンハーゲン、北海道、新潟、滋賀、大阪等を含む各地から60名の同期が集いました。懇親会冒頭には柳下校長、山田事務局長からもご挨拶をいただき、迫先生から乾杯のご発声、そしてキエサ先生からは結びのご挨拶をいただくことができました。同期の林君のアレンジでケータリングもつつがなく、同期のプロミュージシャン塩塚博君のギター伴奏で、学園校歌とEiko High Foreverを大合唱し、記念の一夜を終えました。50年の歳月を経て互いに多少の外形的な変化(笑)もあったとは思いますが、在学中の色々なメモリーを胸に、オープンかつ時空を超えた豊かな時間を共過ごせたのではないかと思います。

井上、大柴、坂口、佐久間、杉浦、高山(智)、林(23期)



横浜ホテルプラムにて28期生同期会を開催しました。司会は青木秀隆君(鶴吉、代表幹事)です。金子好光先生、迫嘉邦先生を囲み32名の同期生が集まりました。迫先生の挨拶と乾杯の音頭で開宴となりました。82歳になられた今も栄光で金曜日の放課後にテニスを楽しまれているそうです。

しばしの歓談と食事の後スピーチです。トップバッターの高田暁君は現在も母校の化学教諭を務めていて栄光学園の近況でした。続いて同窓会副会長の高橋英治君から同窓会の近況についてでした。EACON、Facebookへの登録を呼びかけると同時に未来EiKO募金への協力要請がありました。

次に幹事の私、垣本映が「歩く大会コースの今」と題して高2の時？に道に迷って引き返したあの「歩く大会」のコース(山北

から高松山を経て上智短大)に沿って今春歩いた時の写真を紹介しました。最近の「アラムナイ」で歩く大会の変遷が取り上げられ関心が高かったかと思います。皆のリアクションで「なぜ迷ったのか?」、矢印の描き方の問題(直進なのに上向きでなかった)、碓井徹先生の痛恨の極み話、勝手にゴールし星空を仰いだ強者の青春話、「迷子はいないか?」を確認し回った金子先生と迫先生の話など、初めて聞くことばかりで大いに盛り上がりました。

この後は久々に参加した皆さんの近況を中心にスピーチが続きました。中国、台湾と海外駐在から帰国した田中淳夫君、大阪から東京に戻った岩野宏君、新聞社からテレビ局に移った藤野啓介君、銀行から不動産に移った田中良樹君、ITエンジニアで住職も務める石川英一君と進んだところで再び歓談、食事タイムとなりました。

再開後はちょうど「63歳の」誕生日を迎えた橋本英昭君、マギーニャ先生のベクトルの授業の話に触れた南雲正彦君と続き、トリは再び高田君から体育祭や青木君に関する面白く心温まるエピソードでした。締めは歩き過ぎて疲労骨折してしまうほどお元気で、初孫誕生に喜色満面の金子先生から歩く大会裏話(前述)、元校長の苦労話でした。

藤本直彦、青木秀隆、加藤操、垣本映(28期)

2024年度に全員が還暦を迎える31期の同窓会が、2024年11月9日に横浜駅西口のイタリアンレストランで開催されました。稲田千秋先生、金子好光先生、飯野習一先生、近藤基博先生の4先生方にもご参加いただきました。31期生は73名が参加しました。

私は受付を担当しましたので参加者全員と最初に会いましたが、42年の歳月を感じさせない昔のままの方もいれば、体形、髪の色や濃さがすっかり変わってしまいすぐには誰かわからない方も沢山いました。まさに「年年歳歳花相い似たり、歳歳年年人同じからず(劉希夷)」であります。それでも話しているうち、あるいは笑顔を見ると思い出す方がほとんどでした。

乾杯の御発声は87歳になられた稲田千秋先生でした。人生100年時代を迎えてこれから老年期を迎える私たちへのエールをいただきました。72歳になられた金子好光元校長先生からは、12歳差は同世代と嬉しい言葉、そして身体が不自由になる前にできるだけ頑張るようにと励ましのお言葉をいただきました。レクリエーションは金子元校長先生と参加者全員のじゃんけん大会でした。最後まで勝ち残った方が順番に景品を選んで行きました。単純なゲームでしたが、みんな学生時代に戻ったように楽しく盛り上がっていました。飯野先生には31期生が中高生だった頃の

懐かしい写真、そして我々が学んだ旧校舎と建て変わった新校舎の写真をスライドショーで観せていただきました。最後は全員で『EIKO HIGH FOREVER』の大合唱でした。近藤先生には『EIKO HIGH FOREVER』の裏話についてお話しいただきました。大半の方は歌詞も見ずに最後まで歌っていました。歌詞を見ながら歌う方々は、私も含めかなりの近距離で歌詞カードを見ていました。

このように身体は徐々に不自由になっていくのですが、心の豊かさを失わないように日々の丹精を心掛けたいです。ホイットマンの詩にあるように「若きはうるわし、老いたるはなおうるわし」を目指したいと思います。

宮崎一秀(31期)



34期同期会

同窓会HP
> 活動報告・会報記事
> 各期活動



34期生同窓会が横浜ホテルPLUMMにて開催されました。2016年に卒業30周年同窓会を開催して以降、コロナ期間を経て8年ぶりの再会となりましたが、遠路はるばるお越しいただく方もおられて、前回開催とほぼ同じ78名にご参加いただき、大いに盛会となりました。また、恩師の先生方(林先生、キエサ先生、飯野先生、大島先生)にもご参加いただき、旧交を温める大変良い時間を過ごすことができました。

先生方にはEiko High Foreverに合わせてご入場いただき、まずは逝去された4名の仲間に祈りを捧げたあと、先生型のご挨拶、34期生からの思い出トーク、そして校歌斉唱、未来Eiko募金の贈呈式など、あっという間の3時間でした。

8年ぶり、ましてや前回不参加の方などは卒業以来の方もおられましたが、見た目の変化さえ乗り越えれば、あっという間に栄光生時代に戻れるかけがいのない仲間であることを再確認しました。

最後に、次回開催の幹事、開催時期(還暦祝い)を皆で誓いあい、会は終了、二次会也大いに盛り上がりました。子育てが一段落した方も増え小さな交流の場も増えてきました。今日の日をきっかけに、様々な栄光生ネットワークへの拡散が進めばうれしく思います。総勢12名の幹事団、本当にご苦労様でした。またの再会を楽しみにしています。

角田大憲、本多昇、中澤竜馬、西村寿夫(34期)

パリ栄光会

同窓会HP
> 活動報告・会報記事
> 支部等活動



フランス・パリにて栄光学園の卒業生が集まり、久しぶりのパリ栄光会が開催されました。異国の地で栄光学園という共通のアイデンティティを持つ仲間と再びつながれるこの場は、単なる親睦会にとどまらず、異文化の中での経験を共有し合える貴重な交流の機会でもあります。今回の会は、Facebookの「栄光学園の友達」グループで私が呼びかけたことがきっかけで実現しました。今回の参加者は、写真右から柳沢さん(49期)、名取さん(63期)、そして私、竹内(69期)の3名でした。名取さんはボルドーから、私はルーブルからそれぞれパリに集まりました。パリ栄光会は過去にも存在していましたが、メンバーの帰国や転居などでしばらく途絶えていたようで、こうして再び集まれることに喜びを感じています。

会場はパリらしさを味わえるフランス料理のレストランを選び、まずはディナーでお互いのフランスでの生活や仕事の話から栄光時代の思い出話まで、様々な話を交わしました。異国での日常生活や異業種の話聞くことで、普段触れることのない新たな視点が得られ、大いに盛り上がりました。2次会はバーでさらに話が尽きず、最終的には柳沢さんのご自宅にお招きいただき楽しい時間を過ごしました。

こうしてパリ栄光会が復活し、現地での生活の励みとともに、栄光学園のつながりを感じることができました。また、ジャカルタやロンドンなど世界各地でも栄光会が定期的に開催されていることから、国境を越えて仲間とつながれるネットワークの広がりを実感しました。

フランスには約4万人の日本人が暮らしており、周辺国にも多くの邦人がいます。パリ栄光会の存在を知らない卒業生もまだ多いかと思うので、より多くの方に参加いただけるよう今後も広報活動に力を入れていきたいと考えています。次回のパリ栄光会は来年の1月から2月頃に開催予定です。開催詳細はFacebookグループ「栄光学園の友達」にてお知らせします。連絡はFacebookグループ内またはメール(sasuke_takeuchi@keio.jp)にて受け付けております。

最後になりますが、パリ栄光会が異国での新しい拠り所として定着し、同窓生同士が励まし合える場としてその後も続いていければと願っております。

竹内佐介(69期)

横浜市医学部栄光会

同窓会HP
> 活動報告・会報記事
> 支部等活動

2024年8月24日(土)、横浜中華街・順海閣にて、横浜市立大学医学部栄光会が昨年に引き続き開催された。本会は会長の久能茂道氏(7期)、眼科学教授の水木信久氏(29期)、解剖学教授の船越健悟氏(30期)を中心に、多くのOBが集まり、毎年新入生を歓迎する会である。今年は、総勢38名(教員3名、OB18名、学生17名)が参加した。学園からは、柳下修校長、石川昌紀教諭、飯野習一元教諭にご参加いただいた。会は、新入生の紹介・挨拶に始まり、各OBからの一言、学園から出席された先生方からの言葉、最後に、全員での校歌斉唱、集合写真撮影を行い、盛会の内に終了した。

西田陽太(69期)



山岳部OB会

同窓会HP
> 活動報告・会報記事
> 支部等活動



山岳部OB会が横浜駅東口の崎陽軒本店で開かれました。3期生から24期生までの30人が集い、「よき青春の日々」を思い出しながら3時間余りを過ごしました。OB会は、部の創設者であり部長だった天狗さんこと故ハンス・シュトルテ先生の誕生日(10月15日)に近い土日を選んで毎年開いています。

前日に日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)のノーベル平和賞受賞が決まったことから、広島で被爆した天狗さんの話が出ました。天狗さんは自らの被爆体験についてはあまり語りませんでしたが、この日挨拶に立った8期の仲村邦弘さんが、天狗さんが紫色になった足のあざを見せて、広島での被爆の跡だったと話されたというエピソードを紹介したことをきっかけに、爆風で10メートル飛ばされた話を聞いた、など戦前に来日して戦争や原爆を体験した天狗さんについて語り合いました。

OB会は、14期の磯村正義会長の挨拶と昨年亡くなられた方への黙祷に続き、3期の広瀬徹也さんの乾杯の挨拶でスタート。10期の岩崎孝之前会長が山小屋に設置するストーブの報告をしました。これは昨春OB会が山小屋でストーブを使ったところ底部に穴が空いていて更新が必要なことから、昨年9月に

OB会で募金を行ない、集まった約170万円をストーブを中心とした山小屋の修繕費にと学園に寄付したことに始まります。今春には新ストーブで暖をとれると楽しみにしていましたが、学園の機種選定に時間がかかり、10月中旬に設置予定とのことでした。OBからは12月にはぜひ新ストーブで小屋の夜を楽しみたい、との声が出ていました。

この日のハイライトは、3期の星野芳久さんが自ら作詞した「剣、わが山」を歌い上げたことです。リーダーを務めた10期生の2週間の剣岳合宿の思い出を「穂高よさらば」(古関裕而作曲)のメロディーにのせた歌。日本百名山の中でも難関とされる岩峰剣岳が高校生が難しいルートから登った山行でした。星野さんの歌声に触発されたかOB会の最後は「山岳部歌」「栄光山小屋の歌」「天狗隊の歌」「涸沢の朝夕」という山岳部定番の歌を次々と全員で歌い、来年の再会を誓って散会しました。

山岳部は部活動としては24期を最後に無くなりましたが、私たちOBは、刻まれた良き青春の思い出を今の栄光学園にどのように伝えていくか、丹沢・札掛の山小屋、栄光ヒュッテを核に模索しています。

中川聡(24期)

野球部OB会 秋のOB野球

秋の好天の下、2024年OB野球の集いを実施しました。集合時間の9時半前から、外野でランニングする者、キャッチボールする者、入念に素振りをする者、あるいは自信なさそうにうろついている者など、それぞれがゲーム開始を待ちました。定刻がきて、いよいよプレイボールです。参加者の中には学校・地域などで現役を張っている選手も多く、キャッチング、スローイング、バッティング、ランニングという野球の基本を未だに高い水準でキープしていることに驚きました。特にスピード豊かな投手と鋭いバットスイングの打者の対決は、現役の栄光野球部のプレイを彷彿とさせるほど十分見応えのあるものでした(ちょっと言い過ぎ)。ただし、外野フライに関してはさすがに足腰の弱体化で簡単にポテンヒットを許してしまう場面もあったことは否めませんが、草野球によくある「あ〜あっ!」というひどいレベルのものではありません。試合はライト外野ネット直撃のヒットや思わぬ好守備などもあり、ロースコアの接戦となりました。選手のきびきびした攻守交代もあり、予定の11時ちょっと過ぎには7回戦が成立しゲームセットを迎えました。試合終了後はいよいよスピードガンとピッチングマシンのチャレンジタイムです。まず、スピードガンには5〜6名が



挑戦しました。だいたい115〜6キロ(一部105キロ)の中で、120キロ台を連発する選手がいました。最高は129キロで、次回までにさらに研鑽を積んで是非130キロ台を記録してほしいと思います。次は、ピッチングマシンに挑戦です。ピッチングマシンはバッティング練習だけではなく外野フライの練習にも活用されているとのこと。現役時代にバッティング練習の時のピッチャーのノーコントロールや外野フライのキャッチング練習の時のノッカー技術の拙さで苦勞したことを思い出し、羨ましくなりました。特に、ピッチングマシンにチャレンジする選手が多く、終わった時は1時を過ぎていました。その後弁当を食べて解散となりました。

忙しい中、この会のために尽力された12期花井会長、準備と運営に携われた23期小林さんと24期柏崎さん、医療担当の25期星山さん、当日グランド整備に尽力された35期柏木さん等、皆さま、本当にご苦勞様でした。 松井孝志(17期)

関西支部 第5回総会

栄光学園同窓会関西支部は第5回総会を行いました。今回もリアル(於:AP大阪梅田東)およびZoom双方の、ハイブリッド形式での開催となりました。総合司会は春江尚彦幹事(53期)です。瞑目の後、幹事団からは金田真己事務局長(28期)より開会の辞、金澤和夫支部長(23期)の挨拶の後、河原光博同窓会会長(37期)、ご来賓のうち六甲学院六甲伯友会常任幹事山本裕計様、広島学院翠友会関西支部副支部長三宅秀芳様、上智福岡泰星会関西支部長原田耕作様よりご挨拶を頂きました。引き続いて議事を行い、2023年度決算、2024年度予算案の二議案とも承認された所で、議事は終了しました。

休憩を挟み34期生の村松秀さんより、「公共のためのフロンティアづくりと、新たなコトづくりへの挑戦〜NHK32年と近畿大学でのこれから〜」というテーマで講演をいただきました。東大工学部に進学された村松さんですが、中高時代からのメディアの世界への憧れを実現すべくNHKに入局します。境界越境的に幅広い分野の番組の制作に携わってきた村松さんですが、論文捏造に関わる番組の制作を通じて、予見される成果達成に汲汲とし探究のプロセス自体が蔑ろにされる傾向を科学界に見



て取った村松さんは、「サイエンサー」の制作にあたります。女子高生アイドル達がお題の解決方法を徹底的に考え抜くプロセスを前面に出し、そもそも「科学」という言葉を使わぬこととされたそうです。

公共性を伴ってフロンティアを超えることを問うていきたいと常々考えていた村松さんは、2022年に近畿大学総合社会学部に着任されます。人の心を動かし、豊かにし、幸せにする事をめざすプロジェクトをプロデュースしているとのこと。「大阪エコー遺産アカペラツアー」、「大阪城・超ランドマーク化計画」、「博物館をTikTokでバズらせよう」(大阪市立自然史博物館とのコラボ。同館学芸課長の佐久間大輔さんも栄光34期)等。広義での栄光の精神Men for Others の活動といえましょう。

講演会終了後、金澤和夫支部長による中締めでもって、6期(久保義弘さん)から53期(春江幹事)までの計20名の集った会は終了しました。 西川健誠(34期)

鎌倉栄光会 総会+懇親会

大船駅東口の老舗「鳥恵」にて鎌倉栄光会総会を開催しました。残念ながらこの日は他でも行事が重なり、ご都合のつかない方が多く15名とやや少なめの参加者となりましたが、柳下修校長先生、元同窓会事務局長の前山茂雄さんにご臨席いただき、懇親を深めることができました。

第1部の総会においては、増木洋介会長(30期)の挨拶に続き、事務局の田中誠(32期)より活動報告を行い、最後に会計の青柳雄助さん(16期)より会計報告がなされました。

第2部懇親会では、柳下校長先生、続いて前山さんよりご挨拶をいただいた後、変わらずお元氣な前川卓相談役(1期)による乾杯でスタート、美味しいお酒とお料理を堪能しました。

途中で、参加者全員からお一人ずつ近況等を報告、大島先生(14期)からは、この鎌倉栄光会のご縁で新たな展開があったことをご披露いただきました。

最後は全員で記念撮影を行い、盛会裏に終えることができました。この総会に先立ち、9月に海の家



栄光医師会



快晴の日曜日、横浜崎陽軒本店にて8年ぶりに栄光医師会総会・講演会・幹事会が開催されました。本来はオリンピックの年に4年ごとに開催していますが、前回はコロナ禍で中止を余儀なくされたため8年ぶりの開催となりました。7期の大先輩から71期の若手まで、研修医、医学部生も多く参加し総勢130名が集まりました。

まずは栄光医師会鬼頭文彦会長(14期)より栄光医師会の歴史や現状についてご挨拶いただきました。続いて柳下修栄光学園学校長先生(29期)、河原光博栄光学園同窓会長(37期)よりご挨拶いただきました。司会進行は藤井(31期)が担当致しました。続いて講演会に移り、講演は大川淳横浜市立みなと赤十字病院院長(24期)に「専門医制度の成り立ちと課題」という演題でご講演いただき、座長は松本直樹聖マリアンナ医科大学薬理学主任教授(26期)にお務めいただきました。大川先生は東京医科歯科大学(現東京科学大学)時代から専門医制度の刷新に中枢で深くかかわっておられ、その議論の

で企画した暑気払いは台風10号上陸のため中止となってしまいました。元日に発災した能登半島地震をはじめ、災害対策を強く意識する年でありましたが、今一度組織を拡充し、新たな活動を企画していく所存です。

田中誠(32期)

過程から現状について、また医師の地域的、専門科目的な偏在の問題について詳しくご解説いただきました。会場からは、特に外科医から外科医激減の現状に対する機構の対応など多くの質問があり大変議論が盛り上がりました。全体写真撮影の後、懇親会場に移動し、一転和やかな雰囲気になりました。懇親会の司会は小島一郎先生(41期)が担当し、乾杯のご発声を伴孝先生(22期)にお願いして、その後は同期生同志、同じ専門同志、部活動の先輩後輩などで集まりながら各所で久しぶりの再会を楽しんでいました。18時からは古谷正幸先生(56期)のジャグリング+皿回しの大道芸が始まりました。すでにご存じの方も多いと思いますが古谷先生は医師としての勤務の傍ら大道芸で世界各地を飛び回り数々の賞を受賞されているプロフェッショナルです。その卓越した技とトークに会場は拍手喝采で大盛り上がりでした。最後に、閉会のご挨拶を及能茂道先生(7期)よりいただき、栄光医師会のさらなる団結および4年後の再会を約束して閉会となりました。 藤井真(31期)

24.12.14

山岳部OB会 山小屋の新薪ストーブ火入れ式

同窓会HP
>活動報告・会報記事
>支部等活動

12月14日(土)に丹沢・札掛の山小屋(栄光ヒュッテ)に新設した薪ストーブの山岳部OB会の「火入れ式」をしました。

横浜駅東口から磯村正義会長(14期)ら参加者11人がマイクロバスで出発。第二東名の秦野丹沢スマートICで高速を降り、秦野森林組合で薪を4束購入し(一束500円)、焚き付け用の杉の皮なども調達して山小屋へ。紅葉は終わっていましたが、広場のメタセコイアはまだ黄土色の葉を残しており、落ち葉が雪のように舞っていました。

小屋を開けると寒く、早々に「火入れ式」を開始。磯村会長の挨拶の後、ストーブ導入に尽力した岩崎孝之前会長(10期)と田中泉さん(11期)が焚き付けに仕込んで着火剤に点火。火は勢いよく薪に燃え広がりました。暖くなったところで、岩崎さんと田中さんが挨拶。前のストーブに穴が空き、昨年9月にOB会で募金を募り、集まった170万円余りをストーブを中心にした山小屋の費用に寄付しました。

それから1年余りにわたる長丁場となった導入の経緯を振り返りました。このストーブは日鉄工営(横浜市瀬谷区)製の「キューブ FLAME TYPEA」で本体、煙突とも黒色です。特色は12ミリの厚さがある鋼板の外側をさらに鋼板で覆う二重構造になっている点です。これにより外板はさほど熱くならず安全に使えます。上部には鍋やかんが置ける約30センチの穴と放熱用の小さな穴が空いています。



煙突は垂直に立ち上がり天井に抜けています。以前の横づけの煙突は、途中で排煙が冷えて煤がたまり、ほとんど詰まっていたそうです。田中さんは今年11月に北海道大学の山小屋が火事で全焼した例をあげ、新しいストーブも適切に使って長く愛されるストーブになって欲しい、と話していました。その後は昼食となり、載せたヤカンで湯を沸かし、インスタント味噌汁やコーヒーを作ったり、鍋をかけて持参したおでんを暖めたりとストーブを囲んで盛り上がりました。帰路もマイクロバスで夕方には横浜駅に戻りました。山小屋とストーブの使用方法是、同窓会のHPの事務局通信トップの会員サービスメニュー(<https://www.eikoalumni.org/cmc/service/index.html>)の「山小屋利用の手引き」に記載してあります。 中川聡(24期)

24.12.18

JAXA栄光会 宇宙人集まる

同窓会HP
>活動報告・会報記事
>支部活動



2023年、私はJAXA相模原キャンパスに着任しました。当初私は、栄光生で「宇宙の研究をする」という人はなかなかいないだろうと、無知から理由のない高揚感に包まれていました。しかし、JAXA相模原の豊田裕之さんが44期であることを知り、芋づる式に沢山の栄光卒業生が宇宙のお仕事をされていることに気づきました。JAXAだけでなく、衛星開発メーカー、宇宙ベンチャーの方など、栄光生は不思議と宇宙関係の職業に惹かれていくように思えます。

そんな栄光生と宇宙の不思議な縁をきっかけに、JAXA栄光会と称して、JAXA内の栄光卒業生が一堂に会する忘年会を行いました。全員参加はなかったものの参加者は総勢17

名、26期から58期と非常に幅広い年齢層の同窓生が集まり、交流を深めることができました。会の途中、在籍時代の校風や先生、部活や、卒業後の宇宙関係のご縁など、ざっくばらんに話をいただきました。それぞれが異なる時代に栄光学園に通っていたため、例えば神父の方が授業をしている時代など、様々な時代の栄光学園を知ることができました。加えて、皆さんの宇宙に興味を持つきっかけとなる出来事も印象的でした。ボイジャー1号のニュースで興味をもった方、スペースシャトル時代、宇宙飛行士の方の講演、物理部のプラネタリウムなど、様々な繋がりや宇宙関係のお仕事をされていて、十人十色の栄光生活、宇宙生活を皆さん過ごされていることがわかり、会は大いに盛り上がりました。私は地文研天文部という大学サークルに在籍している宇宙新参者なのですが、地文研天文部の先輩も栄光生にいらっしゃり、世間の狭さに驚愕していました。来年度以降も宇宙関係の栄光生同窓会を、ぜひ続けていきたいと考えています！「宇宙栄光会」と題して、JAXAに限らず広く宇宙関係の栄光卒業生を募りたいと思います。ぜひ皆さん奮ってご参加ください！今回の会は、私たちの把握できた範囲でのメンバーですので、「私は会に呼ばれていないし、宇宙関係の栄光コミュニティがあることも知らないぞ」という方は、58期甚野(jinno.hiroaki@jaxa.jp)までご連絡ください。栄光卒業生の皆さんと一緒に、宇宙を盛り上げていければと思っています。

甚野裕明(58期)

25.1.3

野球部OB会 新年栄光野球

同窓会HP
>活動報告・会報記事
>支部等活動

2025年1月3日、毎年恒例となっている栄光野球部OBと現役部員の野球交流を行いました。「新年栄光野球」と銘打っているこの企画は「新年になったら栄光でキャッチボールをしよう」という若手OBの発案で始まり、毎年1月3日に固定し、現役にも参加してもらうようになりました。今年も12期から76期までの幅広い年代に亘るOB&現役30余名が参加しました。

OBの中には、この日のためにランニングを続けてきた者やバッティングセンターで練習してきた者もあり、みんな喜々として投げ・打ち・守り・走りました。現役には昨秋の関東大会準優勝の快挙を遂げたメンバーもあり、走攻守ともOBを圧倒していましたが、OBも必死に対抗しました。現役の投じるキレのある球をジャストミートしたり、現役をたじろがせる力投を見せたり、外野返球を中継のショートが一塁ランナーを牽制しつつバックホームしてアウトを取る圧巻の連携を見せたりしました。図らずも試合は切迫し、手に汗握る接戦になりましたが、結果は5対2で現役チームの勝利となりました。試合後は、ピッチングマシンを相手に打撃練習を体験し、またスピードガンで投球速度を測定することができました。

昼食会は美術室で行われました。中学監督の32期老岐先生のご発声による瞑目のあと始まり、OBは仕事のことや現役時代の思い出を語るとともに現



役生に応援メッセージを送りました。現役部員は秋の関東大会準優勝を自信にして春夏への意気込みを語りました。22期小池先生からは英語教科書の変遷と展望についてのお話が飛び出しました。高校監督の吉田先生からは現在の学園についてお話しいただき、老岐先生からは現在の栄光生の様子についてお話しいただきました。OB会より試合球と医療キットの贈呈を行った後、OBは「今度は秋の懇親野球で会おう」と再会を約束しました。大いに盛り上がった、いい会でした。このイベントを通じて、一同、タテ、ヨコの繋がりを強く感じるとともに、新たな一年の始まりに英気を養うことができました。最後に、リーダーシップを発揮して取り纏めていただいた花井会長、弁当・飲み物の手配、用具やボールの準備、医療キットの手配、受付、実技担当をしていただいた23期小林選手、24期柏崎選手、25期星山選手、29期宮島選手、35期柏木選手、37期吉野選手の諸氏に感謝申し上げます。 星山雅樹(25期)

25.2.7

NOKグループ栄光会 第一回(設立)総会

同窓会HP
>活動報告・会報記事
>支部等活動

はじめまして。56期の小島と申します。この度、総合部品メーカーであるNOK株式会社グループの栄光卒業生で結成された「NOKグループ栄光会」の第一回(設立)総会を開催しました。NOKと聞いても馴染みのない方が多いと思われますが、社会のインフラである自動車、航空機、船舶、電子機器など世の中の様々なものを”中”から動かすB to Bメーカーです。顧客の願いは「なんでもOK」を合言葉に、多くのトップシェア製品を持つ会社という誇りをもって業務にあたっています。

さて、NOKグループ栄光会のメンバー構成は38期1名、56期5名です。本会の結成の発起人が江上さん(38期、写真右中央)で、2024年にNOKに入社されました。なぜか56期が5名も入社しているNOKの状況を知った江上さんより、本会の結成を提案頂き、56期一同快諾した次第です。56期が5名も入社した経緯は是非次回以降に寄稿させていただけますと幸いです。栄光学園卒業後も20年来の良き友人として密に時間を共有していた私たちは、栄光ネットワーク情報により事前に江上さんが栄光生だという情報を得ておりました。そこで、出し惜しみもせず、総会のプレキックオフの飲み会で上裸中間体操の話題を提供し、冬空の下での活発な活動に思いを馳せたのでした。NOKグループ栄光会第一回総会は江上さんをはじめ、和田さん(56期、写真左奥)、八木さん(56期、写真左手前)、青山さん(56期、写真右奥)、小島の5名が参加しました。上野駅の居酒屋にて昔話に花を咲かせ、懐旧の一時を過ごしました。江

上さんのご子息が栄光学園に在学中であるため、教鞭に立られている56期の先生の近況を共有いただきました。昔話では、栄光学園近隣の女子校の生徒との青春の思い出など大変盛り上がりました。江上さんからは「歳の差を感じず、栄光卒業生の結束を強く感じたひと時だった」とコメントいただいております。小島個人としては、江上さんに自身が栄光生であるとかミングアウトする前から、「(自分のことを)栄光生っぽかった」と言っていたのが大変嬉しかったです。Men For Othersの精神を心の奥に秘めているからでしょうか。「栄光生っぽい」というのが喜ばしいのも、母校に対する愛着があるからであり、そのような環境で6年間過ごすことができたことを、両親・先生方・友人へ感謝しております。これからのNOKグループ栄光会の更なる発展のためにも「栄光生らしさ」を胸に日々を過ごしたいと思います。

小島 晋(56期)



学園だより

24.5.11-12

栄光祭 来場者数は過去最高

2日間合計						
	成人男性	成人女性	男子学生	女子学生	小学生以下	合計人数
1日目	1,455	1,778	238	405	1,438	5,314
2日目	2,082	3,286	1,002	1,119	2,891	10,708
2日間合計	3,537	5,064	1,240	1,524	4,329	16,022

▶ 2024年の栄光祭は本当に久方ぶりの完全無制限の栄光祭となりました。食品催し物は実施自体が5年ぶりでした。生徒食品が復活することが正式に決定した日。幹部全員、実行委員会室で喜びの舞を舞っていました。食品の復活に全力を注ぎすぎて、スローガン決定やらPV撮影やらがどんどん後ろ倒しになり、「ネタをたくさんぶっこむPV」を作れませんでした…。さて、当日の来場者数は16,022人、過去最高！その内訳の一箇所だけを見て、「なんだ、こんなもんか」と思った方も、いらっしゃるでしょう。一方で、今年 목표は、(スローガンとは別で)『また来たいな』と思ってもらえるような栄光祭でした。2日間、校門前で挨拶をしていると、「楽しかったです」「来年も楽しみにします」と、すごくたくさんの嬉しい言葉をいただきましたし、中には、栄光祭から帰りたいなくてベソをかきながらベンチに座り込む受験生の姿もあったと聞きます。 74期 S君

24.5.22-27

Science Olympiad 参加



▲サイエンスオリンピアドの会場

3月に行われた第13回科学の甲子園全国大会で優勝し、米国サイエンスオリンピアドの全国大会に招待されて参加してきました。事実上の世界大会と言えます。栄光祭の一週間後に出国、中間試験の前日夕方に帰国というハードスケジュールでしたが、工作競技(Scrambler)で日本チーム史上最高の2位となるなど、大いに活躍しました。(引率:塚本英雄) ▶ アメリカの食事で水やお茶がなくて辛いのは想像していたが、食事自体は美味しかった。美味しいのだが、何かが不完全、そんな気がした。謎の寂しさと共に数日食事をした末、1つの結論に辿り着いた。「旨みが無い」 73期 H君 ▶ 大学のキャンパスを案内していただいた。大学にある1番大きいスタジアムはなんと75000人収容で他にもアイスホッケーとバスケットボールのスタジアムもあった。(大学のキャンパスの中に)こんな巨大な建物がある事自体驚きだが、土地が有り余っているのを感じた。 73期 N君

24.6.18

東京遠足 76期(中3)

東京遠足は、クラス委員が何ヶ月も前から企画・計画する趣向を凝らした遠足です。当日は悪天候でしたが楽しんだようです。午前 お台場海浜公園から浅草まで水上バス 午後 班別行動 5か所のチェックポイントのうち1つ選ぶ。チェックポイントは「スカイツリー・上野公園・日比谷公園・国立競技場・小石川植物園」 ▶ スカイツリー周辺の店などを散策し、提出用の写真を撮ろうとしたが、うまく4人が映る方法がなく困っていると通りがかりの夫婦の方が撮影してくださったので嬉しかった。 76期 Y君 ▶ 自分達は新宿御苑で、昨年古典読解の授業で見た「言の葉の庭」という新海誠監督の映画内に出てきたベンチを探していたのですが、これがなかなか見つからず。栄光学園の五倍もある新宿御苑でベンチの真反対に行ってしまったので想定の二倍以上時間がかかってしまいました。 76期 M君



24.8.17-31

国際交流派遣プログラム

台風で行きの飛行機が欠航になり、波乱の幕開けでしたが、10人の75期生は、腹痛や発熱を患いながらも、ホストファミリーのサポートを得ながら、セブで充実した2週間を過ごしてきました。(国際交流委員会) ▶ 僕はこの派遣で多くのことを学んだ。その中で僕が最も学んだことは「Now Or Never」ということだ。彼らは積極的にコミュニケーションをとろうとしてきた。僕はその姿勢に心打たれた。そしてこの心意気が今の日本の冷めきった人間関係に必要な考えではないかと思う。 75期 A君 ▶ フィリピンはどこも賑やかだ。人が集まれば、賑やかになる。彼らは話しかけることに何のためらいもない。フィリピンには様々な国籍にルーツを持った人がいる。フィリピンは、歴史的な背景に加え、仕事の関係などでいろんな国の人が集まる。いろんな文化を持った人が集まると、彼らは自分の文化をシェアして助け合おうとするんだと思う。 75期 O君



24.7.11-22

国際数学オリンピック 金メダル



▲パースの街を散策

イギリス・パースで開催された第65回国際数学オリンピック(IMO2024)の日本代表生徒に73期生が選抜され、金メダルを獲得しました。 ▶ ヒースロー空港からバスで3時間ほど移動し、会場の大学に着きました。そこら中にIMOのロゴがあつてテンションが上がります。さて、参加の手続きを済ませたあとは、大学の施設にて到着してから初めての夕食です。イギリス料理が不味いことはもとから知っていて、食べてみたら情報通り不味いのですが、不味いベクトルが「味が日本育ちの口に合わない」ではなく「味が薄い」だったので食べけることは可能でした。試験は2日間で9:00~13:30です。時差ボケは克服できたものの単純に朝が弱くて頭が回らないのではと心配でした。オブザーバーが採点している2日間私たちはエクスカーションに赴きます。宮殿(ウィンザー城とバッキンガム宮殿)やストーンヘンジに行きました。閉会式前日の昼に各国代表の点数及びメダルが全て公開され、自分が金メダルであることを知って安堵しました。 73期 K君

24.7.7-14

国際生物オリンピック 銀メダル



▲IBOの銀メダル

カザフスタンで開催された第35回国際生物学オリンピック(IBO2024)の日本代表生徒に74期生が選抜され、銀メダルを獲得しました。 ▶ ナザルバエフ空港に到着し、ホテルにチェックインしたあと、開会式をします。首都アスタナは治安も比較的よいです。往路は29時間の長旅でした。ホテルにチェックインすると全ての電子機器を没収され、試験で使う筆記用具や白衣(紫)を受け取ります。 3日目が実験試験の日(最初の2日間に各国の引率教員が問題を翻訳)です。実験試験は分野ごとに4つあり、それぞれ90分で行われます。今回の出題分野は、動物解剖生理学、バイオインフォマティクス、生化学、分子生物学でした。4日目が理論試験で、6時間で400問の4拓問題を解きます。試験の採点が行われている2日間はエクスカーションでアスタナの見どころを網羅的にと、少し遠くの国立公園に行きました。 さて、日本チームは全員仲良く銀メダルでした。でも金取りたかったです。 74期 N君

24.7.21-30

国際化学オリンピック 金メダル

サウジアラビア・リヤドで開催された第56回国際化学オリンピック(ICHO2024)の日本代表生徒4名に73期生が選出され、金メダルを獲得しました。 ▶ 空港のロビーにはICH0専用の小さなブースがあり、特産のデザートとフレーバーコーヒーが参加者に振る舞われました。そして、移動のために外へ一歩踏み出してみれば、やはり暑い。生徒は10日間、基本的に学食で過ごします。この学食、大体アラビア料理なのだが、量も信じられないほど多いうえに、個人的にはあまり美味しいとは思えず、切っただけのトマトときゅうりが唯一の救済でした。ただ、CeremonyやPartyでの美味しい食事を通して、「アラビア料理がまずい」わけではなく「学食がまずい」らしいという知見は得られました。

ICH0の試験は4日目に実験課題が、6日目に理論課題がそれぞれ5時間、生徒は連絡手段であるスマートホン等電子機器を運営に没収され、居場所も隔離されます。無事にメダルを獲得することができ、日本代表として汚名を残さずに済んだことにホッとしました。 73期 O君



レセプション会場ではやぶさと対面▲

24.8.7&28

裁判傍聴 75期有志



▲裁判所の前にて

6月に高1の進路ガイダンスで講演していただいた、48期の川邊賢一郎弁護士が「自分が法廷に出る裁判を見に来ていいよ」と言ってくださったことをきっかけに、参加者を募り、横浜地方裁判所に行ってきました。川邊さんには、裁判傍聴という貴重な機会を与えていただいただけでなく、事前の心得を綴った資料提供や、傍聴後に質疑応答を兼ねたミーティングまで、至れり尽くせりの対応をしていただきました。 ▶ 裁判中は終始空気に圧倒された。あれだけの緊張感の中で、被告人質問では一つ一つの質問で裁判官に何かを伝えようとしているのがすごい。今回の検察官は少し説教の気が強めだったのが、検察も罪を立証するためには必要な存在だろう。法曹の仕事はとても興味深いものだった。 75期 D君 ▶ とても印象的な体験ができた。弁護士や法廷についてはドラマなどで見たことはあっても、実際に見るのは初めてで興味深かった。意外だったのは、裁判官や検察官、弁護士が想像よりも堅い雰囲気ではなかったことだ。 75期 A君



▲劇団員と共に

「真面目な高校生には教育上あまり聞かせたくないような言葉が劇中のセリフにふんだんに含まれていますが大丈夫でしょうか」と、劇団側から懸念のメールが届いたので、「…というわけだから、他の劇を探そう」と言うと、「いやいや、是非その劇を見てみたいです！」と口をそろえて、何なら目まで輝かせて言う演劇ゼミ員たち。（教育者として）恐る恐る乗り込んだ下北沢のシアター。大真面目にふざけている小さなステージ上の役者たちは間違いなく輝いていて、絶妙な『間』を武器にぐいぐい観客を惹きこんでいく。

林真理子（引率）

▶ 演劇に対する印象が540度変わりました。伏線は回収されませんでした、飽きずに笑いながら鑑賞することができました。

75期 I君

▶ 狂ったような劇だったが、これを全力で演じきれるのがプロなのと思った。自分たちとは違う世界の人のような気がして、写真撮影でとても緊張した。あれを自分たちがやったらと思うとゾッとする。あの異様とも言える面白さは、演劇というものを極めた人だからこそ出せるのだと思った。

75期 T君



▲体育祭で叫ぶ

▶ 第73回体育祭は、まさかの予定日の延期（涙）。翌日も朝から雨で開始が遅れて、急遽作ってきたプログラムを変更しての開催になりました。用意していたプランがいきなり変わった時は焦りで、正直倒れそうでした。前日に幹部で一丸となって、翌日のプログラムを必死に考えた、長丁場のオンライン夜会議は忘れられない思い出になりました。

74期 M君

▶ 今年の体育祭はものすごく凝った装飾をたくさん作ってやる！と強い希望と熱意に満ち溢れていましたが、実際蓋を開けてみると、時間が足りないの一言に尽きます。PV作成や部門員の募集、装飾の作成等をしている間に気がついたら体育祭当日になってました。

74期 N君

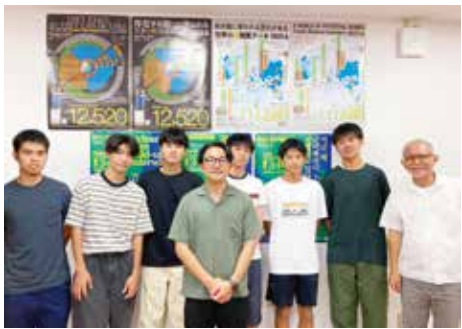
▶ 今年の目標と公約として競技中にけが人が出ないような競技とそのための丈夫な機材を作ることとしていました。結果的には機材は壊れず、競技中にけが人も出ず無事に終わり、本当に良かったと思います。

74期 T君

高1HIROSHIMA・NAGASAKIを読むゼミのメンバー6名と担当教員で、長崎原爆平和研修旅行を実施しました。このゼミは、John Hersey 著HIROSHIMA（初版1946年、追加版1985年出版）を読み解いていくことが基本です。総勢7名という少人数での研修であったこともあり、現地に行き初めて分かったことがたくさんあることを身をもって体験できました。研修目的の「現地とそこの人々を肌で濃厚に感じることもできました。刺激的で示唆に富む経験ができ、今後のゼミに役立てたいと思います。

もう一つ、このゼミのような少人数での生徒-教師の教育環境が、協同学習-相互理解-成長を育むためにいかに素晴らしいかということ強く感じました。このような教育環境がすべての学校で設定されることを切に望みます。

「当事者意識」、「核兵器擁護の人々にも、その非道さ恐ろしさを知ってもらうこと」「核廃絶を目指しての、対立ではなく、緩やかなつながり」を大切にして誠実に運動を続けている人々に出会えたことはとても幸運でした。長崎の皆さま、研修旅行実施に協力して下さった学園関係の方々心から感謝いたします。（担当 崎村）



2024秋、高校野球部は神奈川県大会で準優勝し、神奈川B代表として関東大会に出場し準優勝しました。県大会初戦から関東大会決勝までの軌跡は次の通りです。

神奈川県大会では、日大藤沢にサヨナラ勝ち、横浜に逆転勝ち、Y校にタイブレーク勝ちと接戦を制して決勝にコマを進めました。決勝では三浦学苑に敗れ準優勝でしたが神奈川B代表として関東大会の切符を得ました。

関東大会では、作新学園（栃木）、茗溪学園（茨城）に完封勝ち、準決勝では駒場東邦（東京）をタイブレークで破り、決勝にコマを進めました。決勝では、三浦学苑（神奈川）に再び挑みましたが、惜しくも敗れましたが、見事に準優勝となりました。



準優勝チームとして行進▲



栄光ヒュッテにて▲

▶ 歩く大会の次の日の11月1日から一泊で、栄光ヒュッテに行きました。ヒュッテは中1の時に遠足で初めて行って、これを山岳部の先輩たちが作ったのか！と感動したのと同時に、僕も一緒に作りたいな

あ、と思いました。昔は、海のキャンプもあったりして、自然に触れるイベントが多かったのが羨ましく思います。

77期 H君

▶ 今回のヒュッテはとても大きな期待をよせて行きました。その期待通り今回は、飯盒で米を炊いたり、川で遊んだり、夜ストーブを囲んで話をしたりととても良かったです。その中でも1番は、キャンプファイヤーでした。みんなで食材を持ち寄り焼いて食べたのはとても美味しくて最高でした。

76期 E君

▶ 電気もガスも通っていない中で、火のありがたさを身に染みて感じた2日間だった。火は、人の心も温めてくれるんだと思った。ヒュッテは豪華とは言えないが、山岳部の方々もかつてここで泊っていたと思うと、栄光生としてのつながりを感じた。この歴史と伝統が時代を超え、色あせることなく後輩へ受け継がれていけばよいと思う。

75期 I君



▲重監房資料館にて

愛の運動委員会では、ハンセン病をテーマにした研修旅行を毎年実施している。群馬県草津温泉を訪れ、「栗生楽泉園」「りーかあさま記念館」「重監房資料館」を見学した。

▶ この研修旅行の前に倫理の授業や御殿場にある神山復生病院への訪問でハンセン病についていくらか学んでいたが、今回の研修旅行では、それぞれ違う団体が運営している3つの施設を訪問したことで、様々な視点でハンセン病とその患者について知ることができ、より深く学ぶことができた。

74期 N君

▶ 私が最も記憶に残った事は、重監房についての事でした。再現された監房内の特別に入らせてもらいましたが、とても暗く、部屋の外には雪が積もり、黒カビも生える等、ひどい状態でした。しかし、もっとひどいのは、当時監房に収容されると、食料は、他のハンセン病患者からの差し入れがないと、死んでしまう程しか渡されていなかったそうです。ハンセン病への偏見のみでこんなにひどいことが許されてしまっていたことを反省し、二度と、こういうことが起こらないように、伝えていくべきだと改めて思いました。

76期 T君

オーストラリアより『That Production Company』をお招きし、シェークスピアの名作“MACBETH”を鑑賞しました。

全体的に『初期近代英語』で演じられたのでとても難しかったのですが（中3(76期)は昨年現代文の授業で丁寧に『マクベス』を読み込んでいてよかったですね！）、役者の2人が作り上げる臨場感や緊張感をじっくり味わいました。当日15分程度の打ち合わせのみで特別出演を果たした生徒達は、慣れない舞台に臆せず、立派に魔女やバンクオーを演じていました。

1年に1度の機会ですが、CGや特撮で見事に映像化された動画に慣れ親しんでいる生徒達に、限られた舞台セットと照明や音響、衣装、そして芝居だけで創られる世界の面白さを体感して欲しいと思っています。（英語科）



舞台出演した高一▲

藤沢のショッピングモール「湘南モールFILL」にて鉄道研究会が出張展示会を行いました。

▶ 企画は湘南モールフィルの担当の方が栄光学園鉄道研究会の展示に目を留めてくださったことがきっかけで実現しました。栄光祭、鉄道模型コンテストや男子校フェア、オープンスクールでも出展はしたことはありましたが、栄光学園鉄道研究会単独でのイベントは初で、新鮮かつ貴重な体験でした。

74期 Y君

▶ 広いスペースで展示を行えたので、全体的にすっきりして流れができておりスムーズに対応が行えたのがよかったところだと感じました。今の鉄道研究会ができる全力を出せたと思います。今回の展示によって栄光祭でも落ち着いた環境を作り出せるようになるの良いなと感じました。

73期 H君

▶ 「うちの子どもは鉄道が好きで、この展示も本当に喜んでた。こういったイベントなどを通じて未来の子どもたちにエールを送ってほしい」と、来場者に声をかけられた。

76期 T君



2024年度事業報告・2025年度事業計画(案)

正規の「2024年度事業報告・2025年度事業計画」は、4月の常任委員会での承認を得たうえで、5月開催の2025年度定時総会で議案提示となります。本記事は、2025年3月時点の総会議案書案をベースにアラムナイ用に編集したものです。

2024年度事業報告(案) 事業部

- (1)ホームカミング・デイ
2024年5月11・12日の栄光祭で、71期期委員中心にOBの部屋「アラムナイ」を運営。2日間で397名のOBや関係者が来場。栄光ヒミツキチメンバーとも連携し、OB参加を得て「卒業生はどう生きるか～先輩に訊く栄光生の未来～」について、パネルディスカッションを実施。
- (2)OBフォーラム
2024年10月5日、第18回OBフォーラムをZoomによるオンラインで開催。講師は43期の2名。聴講者は70名以上。(P.24)
- (3)歴史文学散歩
14期大島弘尚氏を中心に、計画通り年間4回実施。(P.26)
- (4)JJHAF共同イベント
JJHAFの共同イベントは、2025年3月1日に『愛する母校を考えるーイエズス会校の未来とはー』をテーマに開催。イエズス会校出身者51名(栄光30名/六甲7名/広島9名/上智福岡5名)参加。(P.25)
- (5)OBゼミ講師派遣
高1ゼミ及び放課後ゼミへのOB講師の派遣。2024年度は、34期と44期が担当。(P.24)

広報部

- (1) 会報アラムナイ
The Eiko Alumniは2024年10月に102号、2025年4月上旬に103号を発行。紙質を少し薄くして経費削減。同窓会の開催や支部活動が活発化してきている印象。開催報告記事は、アラムナイ掲載版はかなり編集。
- (2) 同窓会ホームページ等
ホームページの月2回の定期更新を維持。学園の未来EiKO募金については同窓会トップページに常時表示。WEBでは、同窓会の開催報告などの報告者の原文をできる限り尊重。同窓会Facebookは定期的に発信。フォロー数は2024年度中で200人超。
- (3) 公式グッズ
70周年事業で製作した公式グッズを栄光祭でのOBの部屋「アラムナイ」等で販売。

3 財務部

- (1)会費請求
口座振替に移行済みの会員に対して当年度分2,500円の引き落としを実施。未移行の会員については当年度より口座振込による納入を依頼。当年度分2,500円について未納

- の会員に対して納入を依頼。
- (2)会費納入率向上
2024年度も、引き続き各種イベントの参加者で会費未納である会員について積極的に納付をお願いする等、地道な会費納入依頼活動を実施。しかし、従前に引き続き40期代以降の納入者数が低迷。会費納入率は2023年度(44.1%)より若干低下し43.7%。
- (3)支出削減
印刷費の値上げ前に会報用の封筒を発注したこと等により総務費が前年度と比較し増加。アラムナイの紙質変更によるコスト削減等で、事業費は減少。
- (4)会費納入状況の確認方法
会費納入の有無について会員自身が確認する手段が無かったことを受け、EACONマイページで各会員の納入額(未納額も含め)確認できるよう、機能を拡充。

総務部

- (1)常任委員会・執行委員会
アロイジオ会館参加とオンライン参加のハイブリッド方式で実施することで、運営の実効性を高めて運営。常任委員会の議事内容については、HP掲載の議事録を参照。
- (2)EACON活性化
オンライン会員名簿EACONについては、会員情報の維持管理と利用の活性化という観点から、①会員の情報登録状況の概況確認、②中堅・若手OBのEACON利用状況に関するアンケートの実施、③中堅・若手OBとのEACON活用等に関するオンラインミーティング等を実施。その結果、学生OBの就活支援等、OB間での“繋がり”を持ちたいニーズが強い一方で、接点の情報源となるEACONの会員情報登録にギャップが大きいことを改めて認識。
- (3)事務局との連携
例年同様に事務局をサポートし、円滑な会務遂行に協力。
- (4)イエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)
栄光同窓会が幹事となり、2024年11月23日に上智大学にて第40回会議を開催。(P.25)
- (5)「同期会」「支部」「活動グループ」の活動支援
以下の支援を実施。

- ・各期活動支援:23期の卒業50周年記念同期会開催に際し、お祝い金(10万円)を贈答。各期の同期会の開催連絡等に係るサポートも実施。
- ・支部活動支援:サッカー一部OB会・山岳部OB会・バトミントン部OB会・栄光医師会・公認会計士税理士栄光会・逗楽栄光会・鎌倉栄光会・藤沢栄光会・同窓会関西支部等の総会開催や活動に関し、各種サポートを実施。

- ・その他グループ活動支援:2024年8月25日に開催されたオール栄光ゴルフコンペ(第7回)への補助。66期が運営する「栄光ヒミツキチ」へのサポート。中堅・若手会員の繋がりを進める活動についても適宜サポート。
- (6)社会貢献活動支援
東ティモールイエズス会校への支援を2025年1月に実施。

2025年度事業計画(案) 事業部

- (1)ホームカミング・デイ
栄光祭で、72期期委員の協力のもと、OBの部屋「アラムナイ」を設置する。引き続き、栄光ヒミツキチとも連携する。
- (2)OBフォーラム
オンライン開催とリアル開催、併用開催で定期的な開催を目指していく。通年で3回開催する。
- (3)歴史文学散歩
14期大島弘尚氏を中心に、年4回の歴史文学散歩を行う。
- (4)JJHAF共同イベント
4校共同イベント開催に向けて、企画を検討する。
- (5)OBゼミ講師派遣
高1ゼミ及び放課後ゼミへOB講師を派遣する。2025年度は、35期と45期が担当。

広報部

- (1)会報アラムナイ
The Eiko Alumniは2025年10月上旬に104号、2026年4月上旬に105号を発行する。
- (2)同窓会ホームページなど
継続的にWebページを更新する。同窓会Facebookにより定期的なプッシュ配信を行う。同窓会Facebookでの発信頻度・コンテンツなどを強化する。各期への広報系統(情報伝達系統)について検討する。
- (3)公式グッズ等
同窓会の公式グッズの開発、販売および配布(記念品や手土産)を継続的に検討する。会報アラムナイへの広告掲載の可否について引続き検討する。

3 財務部

- (1)会費納入
前年度から引き続き未納である会員について積極的に納付を依頼する。同窓会ホームページや会報アラムナイにおいて同窓会活動にとっての会費の重要性を継続的に伝える。納入率の改善を目指す。
- (2)会費納入方法
会費収入の安定化と事務局の負担軽減のため、引き続き口座引落(口座振替)への移行を推奨する。移行に際し過年度未納分の納入を免除するキャンペーンを継続する。会報アラムナイや各会員に送付する会費納入依頼のレターでのアナウンスを強化する。
- (3)会費水準の検討
現在のインフレの状況及び将来的なキャッシュ・フローを見据え、当年度の会費納入状況や総務費及び事業費の発生状況を確認しながら、サステナブルな同窓会運営のために必要な会費水準を引き続き検討する。

総務部

- (1)常任委員会・執行委員会
会則や各種規程に則って、同窓会運営の堅確な推進を行う。常任委員会の円滑かつ実効性高い運営を行う。
- (2)オンライン会員名簿EACON
会員情報の維持管理と利用の活性化という観点から、2024年度に認識した課題解決に向け、施策を検討する。
- (3)事務局との連携
持続的な実務運営という観点からも、連携を深め、円滑な会務遂行に協力する。
- (4)イエズス会校同窓会連絡会(JJHAF)
上智福岡泰星会の幹事の下、10月に連絡会を実施する。
- (5)「同期会」「支部」「活動グループ」の活動支援
世代を超えた会員の「繋がり」に資する活動を後押しするように、必要な各種支援を実施する。

同窓会イベント告知

5/10(土)-5/11(日)栄光祭／OBの部屋

栄光祭の開催に併せてOBの部屋「アラムナイ」を開設。今年 は72期が運営をします。昨年に引き続き、「栄光ヒミツキチ」企画の配信イベントを実施予定です。

5/10(土) 同窓会定期総会 (アロイジオ会館／ZOOM)

2025年度定期総会は、5月10日(土)栄光祭当日に行う予定です。リアル&Zoom会議、また議決権行使書を併用してのハイブリット形式で開催します。各期、各支部の委員の皆さま、万障お繰り合わせのうえ、奮ってご出席ください。

8/31(日)第8回「オールEiKOゴルフコンペ」

「オール栄光ゴルフコンペ」2025年度幹事の27期渋谷です。少しずつ暖かくなり春らしさが感じられる頃となりましたが、皆さま日頃のゴルフライフは如何お過ごしでしょうか。さて、「オール栄光ゴルフコンペ」も回を重ねまして今年で第8回目となります。例年8月の最終日曜日に「よみうりゴルフ倶楽部」で開催されて参りましたが、いよいよ半年後になりましたので、正式連絡第一弾のご案内を申し上げます。今から皆さまの「ゴルフ手帳」に、エントリーのほど宜しく願います。

●第8回(2025年度)「オール栄光ゴルフコンペ」開催概要

○日程:8月31日(日曜)

○場所:よみうりゴルフ倶楽部

○募集:正式な参加エントリー要領は4月以降あらためてご案内します。

昨年が96名参加でしたので今年は100名超を目指します。また団体戦有資格条件の各期4名超に向け同期ゴルファーへの声掛けをお願いします。

○幹事:27期、21期(副)

○お問い合わせ先:「オール栄光ゴルフコンペ事務局」mail:alleikogolf@gmail.com個人戦、団体戦実施予定。1人でも多くの同窓生ゴルファーのご参加を待ちしております。

【申込方法】 申込サイトが準備でき次第、同窓会HPまたは、EACON登録済メールアドレスへご案内予定です。

34期	44期
核兵器と平和	欲しい未来は自分で創る！MYパーパスから始めるキャリアデザイン
宮崎広和 Northwestern University	富岡洋平 THINK AND DIALOGUE
企業と弁護士のしごと	「官僚」という仕事
角田大憲 角田大憲法律事務所	猪口隼人 農林水産省
家公務員の仕事と、地方自治体勤務の経験から	目指せ！求められる外科医
岡本誠司 消防団員等公務災害補償等共済基金	鈴木研裕 聖路加国際病院
お金のはなし	気候危機、脱炭素、環境省の仕事
西村寿夫 大樹生命保険株式会社	井上直己 環境省
PlayStationの始まりから今まで。ゲーム業界の変遷	海外起業という選択肢 ～自由な生き方を求めて～
藤井卓 ソニー・インタラクティブエンタテインメント	安藤理智 Sol & Luna (Thailand) Co., Ltd.
変わり続ける銀行	とある半導体エンジニアのお仕事
伊藤文彦 三井住友フィナンシャルグループ	田中英夫 ソニーセミコンダクタソリューションズ
人の心を動かす『番組制作』そして『コトづくり』	損害保険って何？～保険を通じた社会貢献とグローバルビジネスのご紹介～
村松秀 近畿大学	西脇義晴 東京海上日動火災保険
電力技術者の経験と突然の事業承継	弁護士ってなにをするんですか？
窪田洋一郎 大京食品	赤川圭 アンダーソン毛利友常法律事務所
企業と大学の有機化学	便利で安全・快適な鉄道路線を目指して ～鉄道土木の仕事～
田中 健 東京工業大学	西恭彦 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
社会インフラの効率的な管理に向けた産官学の取り組みについて	開業医(歯科)という人生を楽しめる選択
瀬尾 彰 京都大学	宮坂宗永 医療法人社団 桜宗会
ITコンサルタントの仕事とは？～コンサルティング会社を起業し、経営している現在地～	外資系ITのお仕事～AIとRoboticsで世の中はどう変わるのか？～
中澤竜馬 スカイライト コンサルティング	松本大 UiPath
プログラミングからインターネット、そしてドローン開発へ	マーケティングって何？～価値を拡大解釈する仕事の現場から～
野間恒毅 エバーブルーテクノロジーズ	洵暁彦 電通
野生チンパンジー研究者としての30年私大教員としての20年	証券会社、パイサイド、金融業界でのキャリア設計
保坂和彦 鎌倉女子大学	杉本卓哉 チャーチル・ファイナンス・ジャパン



24.10.5

第18回 栄光OBフォーラム Online

同窓会HP
>活動報告・会報記事
>イベント

2024年10月5日の午前中に、Zoomによるオンラインにより、第18回OBフォーラムを開催しました。企画は43期が担当し、「スーパーカミオカンデとハイパーカミオカンデの挑戦」として東京大学宇宙線研究所・准教授の関谷洋之さん(43期)、「米大統領選の行方と産業界への影響」として日本経済新聞・編集委員兼論説委員の奥平和行さん(43期)に講演していただきました。

2025年度は、年2回ほどの開催を予定しています。



関谷洋之氏(43期)▲



奥平和行氏(43期)▲

24.10.13

OBスポ大

10月13日(日)、栄光学園内で若手同窓生が参加するスポーツ大会が開催されました。当日は素晴らしい晴天に恵まれ、70期台の若手同窓生が20人弱集まり、学年を越えて編成されたチームで体育館での競技を楽しみました。

今回の大会では、プラバット(プラスチックバットを使った野球)、ドッジボール、フットサル、バレーボールの4種目が行われ、それぞれ30～45分ずつの試合が進行しました。初めて顔を合わせるメンバーも多い中、試合前にはみんなで競技の進行之を考え、自然とチーム分けが行われました。ゲームが始まると、すぐにチームワークが発揮され、スポーツに打ち込む真剣な姿勢が会場全体に広がりました。

プラバットでは、軽いプラスチックバットを使いながらも、本格的な野球さながらの戦略が練られ、守備と攻撃の絶妙な駆け引きが見られました。ドッジボールでは、誰もが一度は経験したことのある懐かしい競技ですが、容赦ないボールの投げ合いが繰り広げられ、各チームの必死のプレーに笑顔と歓声が絶えませんでした。フットサルやバレーボールも、若手らしいスピード感と活気あるプレーが続き、どの競技も白熱した試合展開となりました。

特に印象的だったのは、初対面のメンバーも多い中、各チームが瞬間に一体感を見せたことです。試合中には互いに声を掛け合い、励まし合いながらプレーする姿が見られ、スポーツを通じて自然と絆が深まっていく様子が伝わってきました。まさに同窓生同士のつながりを強める場となり、参加者全員が

笑顔で充実感を味わっていました。また、50代から60代の同窓会委員の方々も大会を温かく見守り、若手同窓生の活躍を支えてくださいました。彼らのサポートのおかげで、大会は怪我もなく、無事に終了しました。運営側としても大変感謝しています。

今回のスポーツ大会は2回目の開催でしたが、参加者からは「来年もぜひ参加したい」との声が多数寄せられ、今後も継続して実施していくことが期待されています。同窓会としても、こうした若手同窓生の交流の場を引き続きサポートし、来年再来年とさらに充実した大会となるよう、努力していきたいと思

います。皆さまもぜひ、来年のスポーツ大会にご参加いただき、一緒にスポーツを楽しみながら同窓生との絆を深めていただければ幸いです。

同窓会事業部



スポーツ大会でのドッジボール▲

25.3.1

イエズス会姉妹校同窓会共同イベント

同窓会HP
>活動報告・会報記事
>イベント

イエズス会姉妹校同窓会(栄光学園、六甲学院、広島学院、上智福岡)の交流・懇親を深めるための4校同窓会共同企画第三弾として、2025年3月1日に上智大学において『愛する母校を考える～イエズス会校の未来とは～』を開催しました。

上智学院アガスティン・サリ理事長の基調講演では、「理事長として考えること」、「イエズス会員としての精神とその時代的变化」、「現在の課題と悩み」をキーワードとして、各校に所属する神父の人数が減っている現状を踏まえてのイエズス会教育のコアと考えていることなどの話題提供がありました。基調講演に引き続いて、各校からのパネリスト(栄光からは米村俊彦

氏(43期))を交えたパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、各校の伝統・特徴とそのアップデート(例えば中間体操のあり方など)の試行錯誤、各校の卒業生の大学選びの独自性・国際化がある中での、上智大学との関係、高校教育の無償化など、タイムリーなトピックにまつわるディスカッションで、あっという間の2時間半でした。

パネルディスカッションに引き続き、上智大学内で開催された懇親会も大いに盛り上がりました。尚、栄光からは2期～45期から30名を超える参加者がありました。次回の企画にも是非、ご参加いただければと思います。

同窓会事業部



未来EiKO募金

EIKO HIGH FOREVER FUND

栄光学園は、創立100周年にむかって、今後も時代のリーダーを輩出し続けることができるよう、【未来EiKO募金】を設立しました。母校のさらなる発展のため、未来のため、みなさまのご協力をお願い申し上げます。

詳細は右QRコードよりご覧ください。▶



②「田浦、長浦、深浦の今」を訪ねる 24.9.19

田浦旧校舎のその後に興味があり、歴史散歩に初めて参加した。懐かしの京急田浦駅集合は10時。大島先生(14期)より簡単な行程説明があり、三春さん(6期)が生前準備された資料と当時田浦に住んでいた残間さん(12期)手作りの旧海軍施設関連資料を頂戴して歩き始める。

駅正面の船越小の石垣に沿って路地を進み、東芝工場の手前で参加者の自己紹介。3～45期を中心に総勢は30名。再び歩き始め、田浦中下の道に出ると長浦湾の岸にある旧校舎跡が一望できる。奥の旧中学校校舎の辺りはあまり変わらないように見えたが、新しい建物がずいぶん増えたようだ。施設の正門の左高台には10年前にはなかった巨大なビルがそびえていた。ここは現在水上艦80隻を擁する4護衛艦隊他を統括する自衛艦隊司令部なのだ。司令部正門前で記念写真を撮った。

その後、横須賀市内初の民間トンネルという梅田隧道を過ぎると時宗遊行寺の末寺・能永寺に着く。すでに昼近く、隣の深浦ボートパークで昼食となった。ちょうど雲が晴れてあたりの芝生や深浦湾の海の碧が明るく映えてきた。皆、三々五々樹木の下や公園のベンチに座り、昼食、談笑、居眠りなどでのんびりした時を過ごした。昼食後、原口さん(12期)が先導役となって再び行動開始。20分ほど歩いて正禅寺で小休憩した後、さらに進み日産の追浜工場に突き当たって右折するとまもなく貝

③富岡神社周辺史跡を訪ねる 24.11.21

横浜から田浦の栄光に通っていた時も、横須賀に移り住んで東京・横浜に通勤していた時も「富岡」は通過するばかり。どんな町か知りたくなり今回参加した。午前10時「京急富岡駅」に集合。参加者は3期～20期を中心に総勢20名。

昨夜来の雨はやまず、始めから傘をさした。最初の訪問地は二松庵(旧川合玉堂邸)。この日は急な工事のため中に入れず、茅葺き屋根の正門を見て引き返した。川合玉堂は明治～昭和の日本画の大家である。次いで持明院と宝珠院を訪れた。南面の丘の中腹にあって景色がいい。持明院は鎌倉時代の創建で、少し西の長浜にあったが、1311年に東京湾で起きた大津波により村ごと消滅し、この富岡に再建されたという。国道16号線に出て富岡総合公園に向かう。鳥見塚のT字路を右折するといきなり桜並木が現れ、旧横浜海軍航空隊(浜空)の入口跡があった。浜空は戦前の飛行艇隊の主力であった。1942年、南太平洋ソロモン群島ツラギでの偵察活動中に米軍の反攻上陸を受け、500余名の隊員が玉砕したそうである。桜は隊員が植えたもので、由来碑には「年々歳々花変わらねど征きて還らぬ戦友多かりき」と謳われている。悲しい。浜空は米軍から1971年に返還され、富岡総合公園となった。総合公園内の坂を上っていくと見晴台に出る。切り立った崖の上にあり、かつては眼下に紺碧の海が広がっていたであろうことは容易に想像できる。雨はすっかり止み、視界良好。されど今ではすっかり埋め立てられ、遠くに大型施設や高速道路が見える。海はそのまた先にある。ここで昼食をとった。坂を下り、長昌寺に向かう。長昌寺は戦国時代末期の創建。直木賞の由来である直木三十五の墓がある。直木は1933年に富岡が気に入って

山緑地入口に到着した。この台地には大戦時の地下掩体壕が多数ある。道沿いには豫科練誕生之碑や海軍甲種飛行予科練習生鎮魂之碑なども建っていて、横須賀は海軍と本当に縁が深い町であることを改めて感じた。登り切った頂上の展望台からはビル越しに東京湾の雄大な景色を眺めることができた。ここで12期12名は本隊と別れ、追浜駅前の割烹でミニ同期会を開いた。本隊は夏島町に移転展示された第3海堡遺構、貝山緑地の眼下に見た浄化センター=アイクル(容器包装リサイクル法に対応し分別収集する国内最大のリサイクルセンター)を見学して解散となった。私たち12期は第3海堡遺構とアイクルを見逃し残念ではあるが、ミニ同期会も楽しかったのでおあいこか。参加者一同無事予定コースを楽しく完歩しハッピーエンドだったことを報告して本稿を終える。 佐竹信一(12期)



慶珊寺の裏山に東京から移り住んだという。住居跡の碑には「芸術は短く貧乏は長し」と彫ってあった。慶珊寺の角地には、あの孫文の上陸記念碑が建っていて驚いた。碑には「…孫文先生は第二革命に際し袁世凱に迫られ中国を脱出、台湾經由日本に亡命を企図され、1913年8月17日横浜沖より小舟にて当地富岡海岸に上陸 東京に向かわれた…」と書かれていた最後に富岡八幡宮に向かう。途中「松方正義別荘跡」の碑があった。他にも三条実美、井上馨、大島圭介といった大物政治家が当地に別荘をもっていたそうである。富岡八幡神宮は緑の樹々に囲まれた、朱色が鮮やかな、風情のある神社だった。1191年に源頼朝が恵比須様を祀ったのが始まりで、1311年の大津波の時に地域を守ったので波除八幡の異名を持つ。江戸深川の富岡八幡宮は、徳川家康が、江戸の埋立て工事の無事を祈願するため、ここの分霊を祀らせたものだという。数時間の散歩だったが、富岡の沿革や特長がわかり、富岡探訪の目的が達成できてよかった。 花井勝三(12期)



昨年2月に急逝された三春勝正氏(6期)が企画されました2024年度の4回は、新たな仲間も加わり、概ね予定通り実施できました。2025年度も同窓会の企画行事として、三春氏の御遺族と原口吉正氏(12期)からの資料の提供をいただき、以下の4回を企画いたしました。ぜひ奮ってご参加ください。参加予定者の方は2日前まで同窓会事務局にメール等でご連絡ください。大島弘尚(14期)

①宿場町から保養地となった大磯を歩く

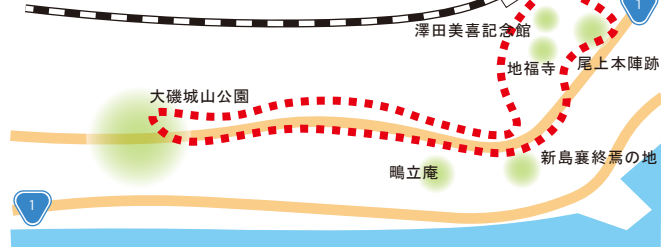
実施日:2025年5月27日(火)

集合 : 大磯駅改札 10時 バス利用予定
昼食 : 弁当
解散: 大磯駅 15時頃

江戸時代、平塚宿と小田原宿の間で宿場町であった大磯、明治になってからも名士の別荘地として栄えました。大磯城山公園の旧三井邸地区には郷土資料館、旧吉田邸地区には、新しく吉田邸が建て替えられました。

【見どころ】

尾上本陣跡、地福寺(島崎藤村の墓)、
新島襄終焉の地、鳴立庵、
大磯城山公園、澤田美喜記念館



②池子の森自然公園を散策

実施日: 2025年10月8日(水)

集合 : 京急 神武寺駅 10時
昼食 : 弁当
解散 : 神武寺駅または逗子駅 15時頃

太平洋戦争後、米軍に長らく支配されていた池子地区が週末と水曜に一部が開園されました。2010年より米軍家族住宅の1部を共同使用し、池子の森自然公園が開園しました。自然公園内にはいくつかの資料館もあります。公園内を中心に散策します。



③栄光学園も含む玉縄城周辺の史跡をめぐる

実施日: 2025年11月18日(火)

集合 : 大船駅南口改札 10時
昼食 : 弁当
解散 : 大船駅15時頃

13期生以降が通った現在の栄光学園の敷地は、隣の清泉女学院を中心とした山城の玉縄城の跡地です。在校生時には知らなかった周辺史跡を巡ります。



④春の多摩川台と六郷用水跡をめぐる

実施日: 2026年3月16日(木)

集合 : 田園調布駅(東急東横線、東急目黒線)10時
昼食 : 弁当
解散 : 御嶽山駅(池上線)

田園調布から多摩川台に出て、多摩川左岸を南下する静かな散歩道、手つかずの古墳が残る多摩川台公園から山道のような散策道が続く。丸子の渡し跡、六郷用水跡を巡って、さくら坂を登ると、霊水と信仰された、湧水で知られた御嶽神社にいらします。



栄光ヒミツキチとは

栄光生が記事を書き、栄光生が編集し、栄光生が読めるオンラインマガジンです。「栄光生を縦にも横にも繋げまくる」をモットーに、栄光生の経験や思いを気軽に発信し、栄光生が知らない世界を手軽に知ることができる媒体を目指します。週に一度は何かしらの記事が更新されます

栄光ヒミツキチRadio

毎月1回土曜21時から放送中！

#71 鉄道の中心で、愛をさげぶ

ゲスト: 月森裕哉さん(74期(高2)/鉄道研究会現会長)
・桐山大生さん(64期/栄光学園国語科/鉄道研究会現顧問/元鉄道研究会会員)
…鉄道研究会会長&顧問&鉄道業界社会人で鉄道愛をひたすら語る！

#72 9月だ！体育祭だ！今年も体育祭実行委員長登場！

ゲスト: 宮坂陸羽さん(74期(高2)/第73回体育祭実行委員長)・木田貴さん(71期/第70回体育祭実行委員長)
…毎年恒例体育祭実行委員長ゲストトーク！3年前ラジオに出演してくれた当時の実行委員長も参戦！

#73 初の海外収録！縁が繋いだスペイン留学最初のひと月

ゲスト: 小松昌樹さん(66期/スペイン・カタルーニャ国際大学)
…11月からインタビュー 駅伝と定期ラジオが合体！初の海外収録！

#74 ヒマラヤ未踏峰を制覇！山登りのスペシャリストを

緊急インタビュー！

ゲスト: 尾高涼哉さん(69期)

…栄光学園・日野先生ご推薦！？ヒマラヤ未踏峰を制覇した大学生に直撃！

#75 海外留学しながら官僚ってどういこと？

ゲスト: 小島淳一さん(63期/経済産業省・カリフォルニア大学)
…官僚をやりながらアメリカの大学院に留学中の栄光生にインタビュー！

#76 英語が話せない自分がカッコ悪かった！「偶然」がつかないだ世界への道

ゲスト: 山本瑛久さん(62期/Google Japan〜シカゴ大学MBA)
…栄光祭広報部門長から数多の「偶然」で世界を西へ東へ！

特派員レポート

西村、社会人やってみます

#18 ○○は突然に(2024年11月①)

…出勤したら突然の異動命令。さてどうする？

【協力者、募集中！】

栄光ヒミツキチは、書いてみたいことがある方や記事の編集に携わってみたい方を大募集中！
もちろん事前知識・スキルなどは一切不要。ご興味ありましたらeikogakuen.univ@gmail.com ご連絡ください！

栄光生の自由発信場(実名編)

斉藤、2浪したってよ(69期 斉藤宇成さん)

最終章 今の話

…1年3カ月にわたる大学受験2浪語り連載最終回！
「生きている限り何かの『途中』。」

鉄道研究会初めでの出張展示(74期 月森裕哉さん)

…2024年11月に湘南モールフィルで開催された鉄研初
の出張展示を会長がレポート！

大学オープンキャンパス

#7 慶應義塾大学理工学部(69期 富谷勇仁さん)



#8 東京藝術大学美術学部(69期 前島悠太さん)

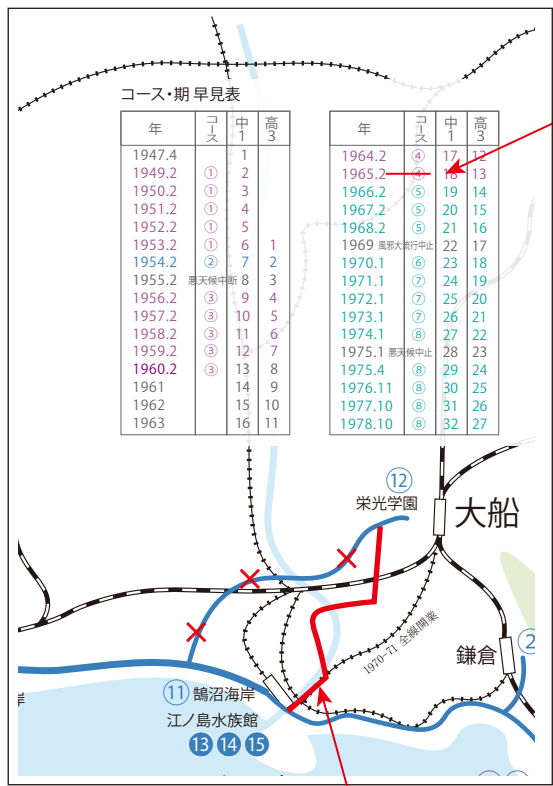


#9 富山大学医学部(69期 高本裕隆さん)



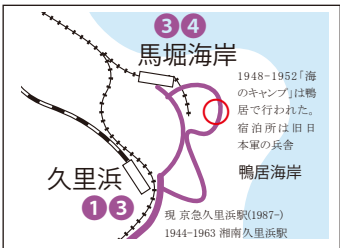
続・歩く大会 反響・訂正版

アラムナイ102号にて「歩く大会の特集記事」を掲載したところ、大きな反響がありました。その中に、「ここは違う(と思う)」というご指摘・証言が幾つか寄せられました。ここでは、その証言に基づいた修正案の紹介をします。



【1965.2の歩く大会は開催していない】

キャンパスの大船移転直後で、「今年はないんだ」と思った記憶がある。14期にとっては、高1のときの1964.2の④のコースが唯一の歩く大会(高3では参加しない慣例のため)の経験になった。また、④のコースは馬堀海岸から海岸沿いを走水〜観音崎を経由して浦賀。浦賀から久里浜へ抜けた。



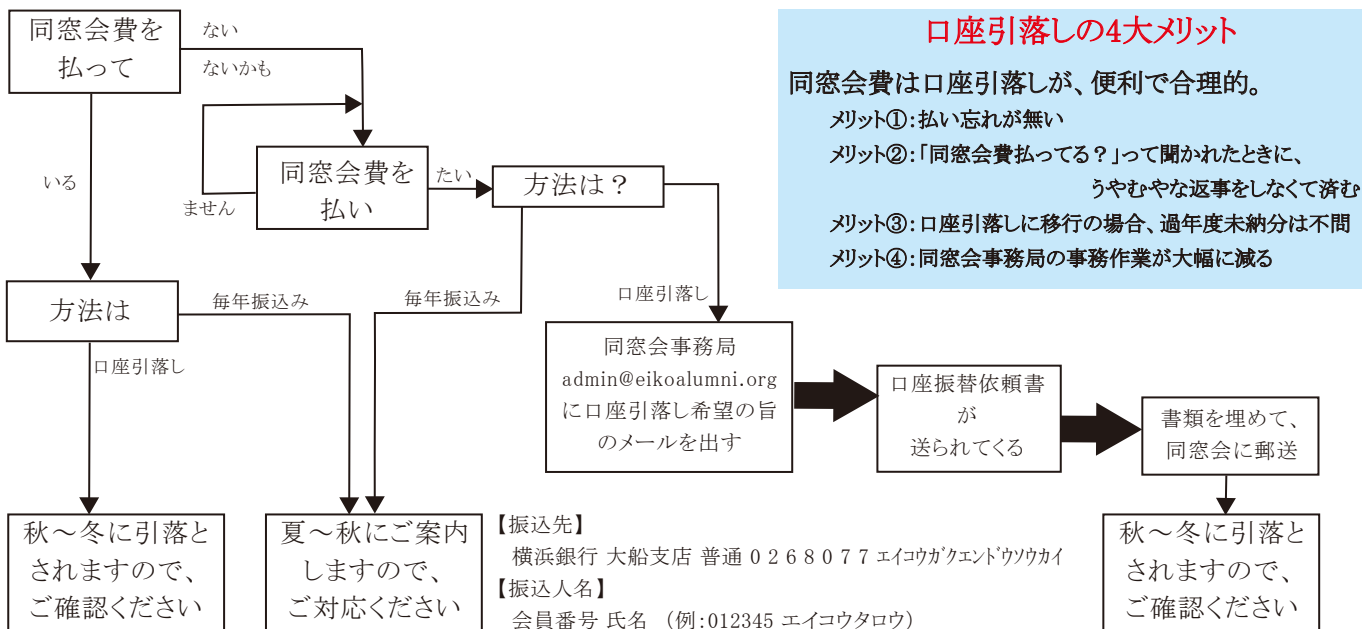
【早見表と年表の不一致】

年表内の記述と早見表の不一致については、原則的に早見表のほう【正】のようです。1964〜1970年の部分の記載事項を修正します。

- 1964.2 「栄光歩く大会」と名称変更。絶対に走らないことを条件に、道路使用の許可を受け、4年ぶり復活。高校のコース変更。
④馬堀海岸〜観音崎〜久里浜間のコース変更で35km→40kmに。この回が期せずして馬堀海岸〜逗子の最終回となる。
- 1964.9 大船キャンパスで新学期
- 1965.2 歩く大会は不開催
- 1966.2 コース変更。山北方面の山岳コースに。
⑤[中学]尺里〜第六天〜渋沢(21km)
[高校]山北駅〜尺里〜第六天〜大秦野駅(27km)
尺里は山北駅から2kmほどの国道246号線沿いの周辺の山登りコースの起点。
- 1969.1 風邪(香港インフルエンザ)の大流行で中止。
- 1970.1 ⑤のコースで実施

同窓会費、払ってたかなあ？

このThe Eiko Alumniを手に入れている人の半分は、同窓会費が未納かも。その現状を打破できるのは、栄光OBとしての底力。



『ユーザーセンター』で自己紹介 ～EACONの機能をつかってみた～

電子版名簿のEACONは色んな機能があって便利…??
ということで、『ユーザーセンター』で、自己紹介にチャレンジ！

「プロフィール写真の設定」にチャレンジ

まず、EACONにログインしてみます。よく見る画面です。この左の会員専用の一番上に『ユーザーセンター』っていうのがあります。これをクリックしてみま

す。
殺風景なユーザーセンターが表示されました。多分、99%以上の方がこの画面になるのではないかとって勝手



EACONにログイン。「会費機能」も見えた ▲



デフォルトのユーザーセンター。個性は無い ▲

さて、自分の写真を「No Image」のところに設定できれば完了です。自分のプロフィールの写真をアップロードするのだから、「プロフィールを編集」から行けそうって思いました。が、残念。これが、大きな落とし穴。プロフィールの編集設定をいくら探しても、自分の写真を上げるところも設定するところも見つかりません。

何のことは無い、上のユーザーセンターの画面の左下にある、「No Image」の上にマウスを持っていくと…。「ユーザーアイコン編集」の文字が現れました。クリックしてみると、画面が現れました。画面下に現れた選択枝は3つ。「カメラで撮影」、「Myフォトから選択」、「ファイルから選択」の3択ができるようです。



ユーザーアイコン編集の画面。画像は3択です ▲

今回は、「ファイルから選択」をして、自分のPCの保存されている写真から適当な写真を選んでみることにしました。写真を選択すると、写真のどの部分を使うかを調整できます。回転、拡大縮小、表示する部分を調整して「保存」を押すと…プロフィールの写真が入りました！なんか、ちょっと明るい感じになってきました。また、使った写真は、「Myフォト」に追加されていました。

ここまでで、なんで「アイコン編集」なのか？って疑問に思っていたのですが、ユーザーセンター、自分の名前の左についているアイコンに、この写真が使われていました。確かに、アイコンです。



ユーザーセンターの画面。全体からの見え方も ▲

「自己紹介文でリンク先に飛ばす」にチャレンジ

プロフィールの写真ができてみると気になってくるのは、その右のグレーのスペースです。マウスをグレーのところに持っていくと、右下の方に「コメントの編集」が現れました。クリックすると、「コメントを編集する」というウィンドウが開きました。



コメントの編集画面。250字以内でコメント。 ▲

「自己紹介などのコメントを250字以内で書き込めます」とあります。やってみます。

自己紹介の文面に加えて、職場のWebページ、自分のFacebookのページもアドレスの https:// で入れてみました。なんと、Webページも、Facebookのページも自動的にリンクされています。クリックしてみると、職場のページに飛べました。250字の制限はありますが、相談ください、ベンチャー立ち上げました～とかの方は、宣伝用のリンクとして、使える機能かもしれません。

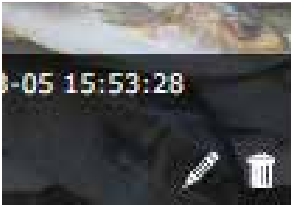


ユーザーセンターの画面。コメント文からリンクできるのがうれしい ▲

「背景イメージをオリジナルにする」にチャレンジ

ここまでで、いいちやあいいんですが、青地の部分が気になります。ところが、青い部分をいくらマウスで探しても、な～んにも反応がありません。「これ編集できるの？」色々と試行錯誤して、やっとわかりました。出来るんです！

「Myフォト」が入口です。プロフィールの写真のアップロードに成功していると、「Myフォト」に写真があるはず。「Myフォト」をクリックすると、「新規画像を追加」というボタンが現れます。まずは、ここに候補の写真を追加します。次に、その写真の上にマウスを持っていくと、「編集」と「ゴミ箱」のマークが表示されます。



Myフォトで写真にマウスを！ ▲

ここで、「編集」の方をクリックすると、下の方に「プロフィール画像に設定」「ユーザーセンターのタイトル背景に設定」のボタンが現れます。「タイトルの背景」の方を選択すると…画面が変わるかと思いきや、変わったのは下の方のボタンのタイトルが「ユーザーセンターのタイトル背景から削除」に。背景を変えなくなったら、ここで削除を選択すればいいらしい！で、ユーザーセンターに戻ってみると、出来てました。ちょっと文字が見づらいので、別の写真にしてみようかな～。



ユーザーセンターの画面。賑やかになったが、文字が見づらくなった ▲

information

訃報 (2024年 9月1日～2025年2月28日 判明分)

卒業生			
佐藤公一氏	(11期)	2023年	2月26日
北村直彦氏	(8期)	2023年	12月 9日
鈴木 顕氏	(4期)	2023年	12月 9日
林 千秋氏	(24期)	2024年	4月25日
太田 淳氏	(21期)	2024年	5月 2日
織茂 清氏	(9期)	2024年	7月25日
漆間久修氏	(19期)	2024年	8月 7日
舘野洋一郎氏	(12期)	2024年	8月11日
青山忠良氏	(6期)	2024年	9月 4日
坂本宏之氏	(9期)	2024年	9月17日
澤 義規氏	(2期)	2024年	9月25日
近藤力男氏	(2期)	2024年	10月 1日
武田孝志氏	(28期)	2024年	10月 4日
藤島和夫氏	(14期)	2024年	10月 5日
石黒孝喜氏	(13期)	2024年	10月 6日
小島恒雄氏	(1期)	2024年	10月 9日
木田祐輔氏	(45期)	2024年	10月11日
青木盛久氏	(5期)	2024年	11月 9日
川崎喜正氏	(6期)	2024年	11月 9日
田中邦男氏	(2期)	2024年	11月11日
山口隆雄氏	(11期)	2024年	11月26日
川崎代治氏	(13期)	2024年	11月27日
久保隆一郎氏	(17期)	2024年	11月30日
後藤典彦氏	(11期)	2024年	12月 5日
松本 基氏	(7期)	2024年	12月14日
松山祐一氏	(29期)	2024年	12月16日
金窪周作氏	(3期)	2024年	12月16日
新井慶之輔氏	(6期)	2024年	12月17日
長谷川公一氏	(4期)	2024年	12月22日
向井久信氏	(9期)	2024年	12月22日
戸谷真人氏	(13期)	2024年	12月27日
森田 洋氏	(29期)	2024年	12月30日
安東裕躬氏	(7期)	2025年	1月 7日
岸 洋一氏	(10期)	2025年	1月10日
青戸邦嗣氏	(13期)	2025年	1月30日
宮脇章郎氏	(16期)	2025年	2月 8日
田村善教氏	(9期)	2025年	2月10日
小寺重隆氏	(11期)	2025年	2月16日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

追悼ミサ 5/10(土)9:30～(栄光学園聖堂)

栄光祭初日に合わせて追悼ミサを学園聖堂で行います。昨年5月に実施した追悼ミサ以降に亡くなられ、同窓会事務局が把握している、旧教職員、卒業生が追悼ミサの対象になります。ご遺族の方にも参列の招待をいたします。

2024年度でご退職された先生

会田完三先生、伊東法信先生、大西猛先生(ゼミ講師に変更)、原敏先生
学生時代は大変にお世話になりました。ありがとうございます。
今後とも末永くよろしく願います。

次号(第104号)
2025年10月発行予定。

投稿歓迎(同窓会HP、Alumni)

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度＋画像1～2枚。同窓会事務局宛てメールでお送りください。
記事によっては、同窓会HPのみ、Alumniのみの掲載となること
があること、また、掲載にあたって文言などが編集されることがある
ことを、ご承知おください。

同窓会公式FBでいろいろ情報キャッチ！

同窓会公式FaceBookをフォローしていただくと、同窓会からのお知らせや同窓会HPの新着情報などをキャッチしやすくなります。是非、フォローください。また、同窓会公式Facebook経由での告知を希望される場合は、同窓会公式Facebookアカウントにメッセージをお寄せください。

同期会開催・支部活動のサポートします！

「同期の連絡先を知りたい!」「イベントの告知を同窓生にしたい!」こんなとき、同窓会事務局をお使いください。

【告知のサポート】

告知の文面をいただければ、全同窓会会員、同期、支部等への一斉メール配信できます。ハガキの文面を作成ただければ、必要数の印刷、同窓生へ送付までお任せください。ただし、郵送料については、告知主の方でご負担ください。

【お金のサポート】

成人式記念や卒業後10、25、50年に該当する節目の同期会の開催には最大10万円の補助金をサポートの制度があります(※条件あり)。節目の開催がコロナ下で延期となっている場合は、サポート対象になることがあります。

編集後記

今年は桜が咲くのが早いと感じました。温暖化なのか？たしかに、霜柱はすっかり見なくなりました。昭和末期の冬場の栄光のフィールドは融けた霜柱でぐちゃぐちゃになったものですが、最近はどうなんだろう？今でも、ぐちゃぐちゃになるのだろうか？そんなことを考えながら歩いていた3月中旬。満開の桜多いなあと感じていたのですが、気象庁の開花宣言はまだでした。ひょっとすると、身の回りの桜は徐々に早咲きの桜に植え替えられているのではないかと
思いました。早く咲けば、早く散るだけなのに、なぜ、早咲きを世間は求めるのか？という問いの答えは、世界中にあふれかえっている気がします。自分の所属する草野球チームの春の大会は、桜が咲く前に散りました。

なんでも楽しもうぜ！ by 編集長



全てのお問い合わせ先

栄光学園同窓会事務局

〒247-0071 神奈川県鎌倉市玉縄4-1-1

Tel/Fax: 0467-44-8875

e-mail: admin@eikoalumni.org